

ロータリークラブは 何をしている団体？



私たちの奉仕活動



国際ロータリー第2510地区

発刊によせて



「ロータリークラブ」を多くの人に知っていただくツールとして2016年度のガバナー武部實氏のご提案のもと、財界さっぽろの舟本秀男様（札幌南RC）の全面的な協力により、2016年7月から3年間36回にわたり貴重な誌面をお借りして「ロータリークラブの神髄」を連載していただきました。

ロータリークラブは1905年2月、アメリカ・シカゴの青年弁護士ポール・P・ハリスのインスピレーションにより親しい仲間4人で設立したのが始まりで、日本では1920年10月、東京ロータリークラブが設立されて2020年が、ちょうど100周年を迎える国際奉仕団体です。

しかしながら、ロータリーは一般の方々にはまだまだロータリーは充分知られていないこと、そして地区内70クラブの間においても他のクラブはどのような活動をしているのかが意外と情報が共有されていないこと、そして3年間の折角の連載を一度限りの掲載ではなく地区内ロータリーアンが今後、どこでもいつでも手にとって目にするのができるようにと、この度、日本ロータリー100周年の機会に小冊子にまとめようということになりました。

最後になりますが、財界さっぽろ様との橋渡しをしていただきました武部實バーストガバナーの英知と行動力に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

2020年 6月

国際ロータリー第2510地区

2019—2020年度ガバナー 福田武男（千歳RC）



2016年、武部實ガバナー、杉江俊太郎広報・IC委員長の企画でスタートした「ロータリーの神髄」は、財界さっぽろ様のご協力をいただき3年間にわたり地区内69クラブおよび地区委員会の活動を紹介してまいりました。このたび福田武男ガバナーのご了解をいただき、連載時に掲載できなかった札幌ライラックロータリークラブの記事を加え『ロータリークラブは何をしている団体?』として一冊にまとめ、ロータリーの神髄

の集大成とさせていただきます。

最初の掲載から丸4年たつてしまい、一部は現状と違うところもありますが、時代に合わせロータリークラブがしっかりとした目標を持って活動をおこなってきた歴史としてとらえていただければ幸いです。この冊子が多くの人の目に触れ、「ロータリーって、こんなことをしているんだ」との理解が深まることを期待しています。

さらにはロータリーに協力

していただける人、仲間になってともに活動してくれる人が増えていくことを願っています。

最後に、地区内70クラブのみなさまがさらなるご活躍をされますことを祈念し、また財界さっぽろ様に感謝を申し上げ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

2019-2020年度
国際ロータリー第2510地区
広報ICT委員会委員長

武蔵 輝彦(岩見沢RC)

ロータリークラブは 何をしている団体?

私たちの奉仕活動

国際ロータリー第2510地区

3 発刊によせて

福田 武男

2019-2020年度ガハナ1

武蔵 輝彦

2019-2020年度広報ICCT委員会委員長

ロータリークラブの 取り組み

6 ポリオ撲滅活動
最後の0.1%との戦い

8 福島キッズ・キャンプ
被災地の親子に笑顔を

10 平和の土台を築く「青少年交換」

12 国際奉仕・VIT
タイの教育・医療を支える

14 ロータリー財団
世界でよいことをするための基金

16 米山記念奨学会
日本と世界を結ぶ「懸け橋」

18 120万本の植樹事業

20 ロータリークラブ増強を目指す

22 ポリオ・プラス委員会
ポリオ根絶を目指して

24 胆振東部地震復興への奉仕

国際ロータリー第2510地区

全70クラブの活動

28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98
深川	羽幌	妹背牛	留萌	赤平	芦別	砂川	滝川	美唄	江別	江別西	岩見沢	岩見沢東	栗沢	栗山	当別	札幌	札幌はまなす	札幌北	札幌モーニング	札幌西	札幌西北	札幌手稲	札幌東	札幌清田	札幌幌南	札幌真駒内	札幌南	札幌大通公園	札幌ライラック	新札幌	岩内	倶知安	小樽	小樽南	小樽銭函	蘭越	余市	千歳	千歳セントラル	恵庭	北広島	長沼	由仁	えりも	三石	様似	静内	浦河	伊達	室蘭	室蘭東	室蘭北	登別	洞爺湖	函館	函館亀田	森	七飯	長万部	函館セントラル	江差	函館五稜郭	函館東	函館北	北斗	白老	苫小牧	苫小牧東	苫小牧北	謝辞にかえて 武部 賢 2016-2017年度ガハナ1

ロータリークラブの
取り組み



かつて北海道でも
100人以上の死者

「ポリオ」（急性灰白髄炎）はポリオウイルスが人の口から入り、腸内で増殖し、主に便を介して感染する。成人でも感染するが、5歳未満の乳幼児にかかりやすく、一般的には「小児まひ」として知られている。

腸管に入ったウイルスが脊髄の一部に入り込み、主に手足にマヒが現れ、それが一生

ロータリークラブ
の取り組み

1

◎ポリオ撲滅活動

最後の0.1%との戦い

日本でも大流行したポリオは、国際ロータリーが主導する予防活動により、撲滅が目前となった。発症数は1988年と比べ、2015年は74件と99%以上減少。道内のロータリアンたちも、残り0.1%との戦いに総力をあげている。



ポリオにかかったアフリカの子どもたち

残ることがある。最悪の場合には呼吸筋が機能せず死に至る。ただ、こうした典型的なポリオ発症の割合は感染者の1%以下で、ウイルスに感染しても多くの人は何も起こらな

いか、夏風邪のような軽い症状のみで回復し、知らない間に免疫ができる。

日本では1960年にかつてない大流行が発生し、ポリオ患者の数は5000人を超えた。北海道でも総計1609人のマヒ患者と106人の死亡者が出た。

ポリオに特効薬はないため、複数回のワクチン接種のみが、ポリオから身を守る方法となる。日本では63年からワクチンの定期接種がスタートし、

80年の1例を最後に、現在まで新たなポリオ患者は出ていない。

日本を含め、世界的なポリオ撲滅に大きな貢献を果たしてきたのが国際ロータリーだ。創立80周年を迎えた85年2月に「ポリオ撲滅活動をおこなう」と世界に向けて発表。86年7月から5カ年で40億円を目標に、募金活動を開始した。結果的に目標金額を大きく上回る49億円の寄付金を集めることに成功した。

さらに88年、第41回世界保健総会において、ポリオを全世界で撲滅する決議が採択された。これを受け、国際ロータリーやWHO、ユニセフ、米国疾病予防センターが主導する「世界ポリオ撲滅推進計画」が始まった。その後、88年に35万件だったポリオ発症数は、2015年には74件と、99%以上減少している。



WHOによる撲滅宣言が出されているのは米州（94年）、日本を含む西太平洋（2000年）、西欧（02年）、インドを含む東南アジア（14年）の4地域。残るはアフリカと東地中海地域だ。

ポリオの常在国だったナイジェリアで1年間発症がゼロになり、アフリカ全体で発症が1件も報告されなかった。今後2年間程度、ゼロの状況が続けばアフリカに撲滅宣言がなされる。

現在でもポリオ患者が毎年生まれている常在国はパキスタンとアフガニスタンだ。13年4月、世界ワクチンサ

札幌市の大通公園でおこなわれたポリオ撲滅のための募金活動

岡崎芳明国際ロータリー第2510地区2016-17年度ポリオ・プラス委員会委員長



ミットが開催され、国際ロータリーは同年から18年までの5年間、「ポリオ撲滅最終戦略計画 END POLIO NOW」を実行すると決めた。紛争や宗教的障害がある地域へのワクチンの輸送や医療従事者の確保、研究所の設備、現地の保健従事者と親たちへの教育には、多額の資金が必要になる。国際ロータリーは同計画を通じて資金面の支援を強化することで、最後の0・1%との戦いに終止符を打とうとしている。

こうした世界的な動きに合わせ、国際ロータリー第2510地区（北海道西部）にも14～15年度にポリオ・プラス委員会が新設された。委員長の岡崎芳明氏は「99%以下になりたいですが、ポリオ撲滅の最後のチャンスだととらえて活動を展開しています」と話

す。

同地区内の各ロータリークラブは募金活動や会員による寄付などを続けてきた。14昨年9月14日のロータリーデーには、地区内の至る所で募金活動がおこなわれ、主催した落語会やコンサートなどでも寄付を募った。

ポリオ撲滅はロータリーの最重要課題

「今後は地域との連携強化を図っていききたいと考えています。例えば、各クラブ地域でおこなわれるお祭りなどのイベントにあわせて、寄付を募るなどのキャンペーンをおこなっていき。いくつかのクラブではすでに実施している活動ですが、これを地区内すべてのクラブが実行できれば、地域のみならずのポリオに対する理解がより深まると考えています」（岡崎氏）

ポリオの発症は確かに99%以上なくなったが、ワクチン接種は世界中で続けられてい

る。岡崎氏は次のように語る。「万が一、再流行が起きると40年間で1000万人がポリオを発症し、日本にも広がる可能性がないとは言えません。つまり、撲滅させない限り、不安は解消されないのです。未来の子どもたちのために、撲滅活動を推し進めることは、私たちロータリーアンにとって、最重要課題となっています」

三石ロータリークラブ（新ひだか町）が地元のお祭りで実施した募金活動





2016年8月7～9日に岩見沢市内で開催されたキッズ・キャンプ

◎福島キッズ・キャンプ

被災地の

親子に笑顔を

北海道西部のロータリークラブが実施する「キッズ・キャンプ」は東日本大震災で被災した人たちの「笑顔」のためにスタートした。震災翌年から今年（2016年）に至るまで継続されているキッズ・キャンプを紹介する。

人が砂川市や江別市の子どもたちとの交流を中心に思い出をつくった。

13年夏のキャンプにはタイのノンカイロータリークラブ、バンコククロントイロータリークラブが主催者に加わり、東京学芸大学に留学中のタイ人学生も参加するなど、国境を越えた体制で実施された。

江別市でのトウキビ畑での収穫、空知管内長沼町での風揚げやアーチェリー、札幌市では藻岩山登山など、さまざまな体験活動がおこなわれた。夜には、登頂記念パーティーが催され、子どもたちが「飯

◎目的と支援継続

北海道・東北・関東に未曾有の被害をもたらした東日本大震災。国際ロータリー第2510地区（北海道西部）の各ロータリークラブは、地震が発生した2011年3月から現在に至るまで、被災地支援の取り組みを続けている。

その1つが5年連続7回目

の「キッズ・キャンプ」だ。

福島第一原発事故の影響により外で自由に遊べなくなった被災地の子どもたちを北海道に招待し、放射能の恐怖をいつときでも忘れ、楽しい思い出づくりをしてもらうことを目的としてスタートした。

1回目のキャンプは国際ロータリー第2530地区（福島県）と第2510地区によ

る共同企画として2012年の春休み期間に開かれた。

計画的避難地域に指定され、離ればなれに避難している飯館村の子どもたち33人が参加。キロロリゾートでのスキー学習やミュージカル鑑賞などを楽しんだ。

その年の夏休み期間に第2回のキッズ・キャンプがおこなわれ、同村の子どもたち25

「館村民歌」を披露した。

14年1月から2月の第4回のキャンプは前回同様タイプのロータリークラブとの共催。冬らしい体験をしてもらおうべく、サッポロさとらんどで雪像づくりなどがおこなわれた。飯館村と札幌の子どもたちは雪の中を走り回り、交流を深めた。

◎経過に合わせて変化する支援

同年7～8月には、震災により道内に避難している家族を対象とした、親子で参加するキャンプを

岩見沢市で開催した。

花火大会や火おこし、天体望遠鏡づくりなど、普段

道被災者
あふれる
親子の
大地の
自然の大
キャンプ



16年のキャンプに参加した親子は本格的な石窯ピザづくりに挑戦した

できない体験を提供した。

このキャンプから名前を「ロータリーわくわく森の親子キャンプ」に変更した。

15年の夏も岩見沢で自然体験を実施。ロイトン札幌のシエフトともに本格的なホテルのカレーづくりなど、多彩なプログラムが展開された。

そして16年は8月7～9日の2泊3日の日程で開催された。この回から支援の輪を広げる連携を推進するため、事業主体は北海道西部の複数のロータリークラブに変わった。北海道に避難・移住している福島の親子計20人が参加。

天体望遠鏡づくりや花火、岩見沢の親子とおこなった星空観察などのプログラムのほか、ブルーベリー狩り、石窯ピザづくりが実施された。

バーベキューでは留萌や小樽など多くのロータリークラブから贈られた海産物などの差し入れに、子どもたちは大喜び。キャンプの閉会式では

参加者から感想が発表され、子どもたちは緊張した笑顔で「楽しかったです」と述べた。

親たちからは次のような感想が聞かれた。

「子どもたち同士がはしゃぐ姿を、お母さんたちと話をしながら見ている時間がこの上なく幸せでした」

「自然の中で伸び伸び遊ぶ子どもの姿を親として見られ、本当に北海道に来てよかったと、しみじみ感じるようになりました」

「2年ぶりの参加でロータリーのみなさんから『お元気でしたか』とお声掛けいただいたり、子どもにも『大きくな

ったね』と存在を覚えていただけにいる温かいご縁をありがたく思いました」

東日本大震災から5年がたち、キャンプの目的も変化してきた。当初は冒頭に記したように、被災地の子どもたちに楽しい思い出を——というものだった。

現在は子どもたちだけではなく、被災者として同じ思いを持つ親たちの情報交換、不安解消の場にもなっている。

第2510地区の各ロータリークラブはまだまだ復興が見えない現状を踏まえ、今後被災地の親子が笑顔になれる支援が必要と考える。



14年のキャンプから実施されている天体望遠鏡づくり

親善大使として 高校生を派遣する

「ロータリー青少年交換」は国際ロータリー第2510地区（北海道西部）でも50年以上続く国際奉仕事業だ。



第2510地区内のクラブが受け入れている派遣生たち

ロータリークラブの取り組み 3

平和の土台を築く 「青少年交換」

国際ロータリーは青少年の育成を奉仕活動の柱の1つに掲げている。「青少年交換」はその象徴的的事业だ。第2510地区（北海道西部）も50年以上、青少年交換を継続。派遣生たちは「親善大使」として、平和の礎を築いている。

青少年交換の対象となるのは高校生。いわゆる語学留学制度ではなく、ロータリーのバックアップを受け、各国の親善大使として派遣される異国間交流プログラムとなっている。

地区内の各ロータリークラブが青少年交換への参加希望者を募集。そこにエントリーしてきた高校生を、各クラブが面接の上、地区の青少年交換委員会に推薦する。そこからさらに同委員会による選考会がおこなわれ、正式に派遣候補生が選ばれる。その後、半年以上にわたる研

修を経て本番を迎える。派遣生を受け入れるのは、各国のロータリークラブだ。ホームステイ先もロータリアンの家庭であることが多いため、安心・安全な体制が整っている。

派遣期間は11カ月以上、1年未満。派遣生の生活は基本的に日本にいるときと変わらない。朝起きて登校し、わがわからなくても頑張って授業に出る。

ただ、普通の留学生と違うのは、ロータリー行事への参加が、すべてにおいて優先されることだ。

一方、派遣生を出した地区内のクラブは、同じ人数の派遣生を受け入れる。

第2510地区は2016―17年度、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フィンランドに4人の高校生を派遣している。16年12月8日現在、前記の国々から同じ数の派遣生が第2510地区に来て、日本の文化などを学んでいる。

かかる費用だが、基本的に派遣生の家族が負担するのは往復の旅費と保険、それからビザの申請料などの出発準備費用くらいだ。

派遣生にはロータリーから毎月100ドル相当のお小遣いが支給されており、派遣生を受け入れるホストファミリーにも金銭的支援が実施されている。

家族を大切に思えるようになる

第2510地区内のクラブが受け入れている外国人派遣生の1人、ドイツ出身のユリウスさんは「テレビやインターネットで日本のことを見ておもしろいと思い、青少年交換への参加を希望しました。父がロータリアンなので、このプログラムを選びました」と語る。

アメリカ出身のマリーさんは札幌の印象を「とても大きなまちですね。大通公園では

いつもイベントが開かれていて、とても楽しい」と話す。自国と日本の違いに驚くこともあるという。

「日本のレストランでは入るときに『いらっしゃいませ』と必ず言われるし、お辞儀もされる。とてもやさしい印象で、そこはドイツとは違う」（ユリウスさん）

マリーさんの日本での楽しみは部活だという。所属しているのはダンス部。ヒップホップやジャズなど、難しいジャンルのダンスにも挑戦中だ。ちなみに、先生はちよつと怖いそう

だ。ジュリアさん（アメリカ出身）は「ゲームセンターやボウリング、カラオケ、プリクラが大好き」と日本の女子高生と変わら

ない面を見せる。

彼らが学んだことは、日本語や文化だけではない。ユリウスさんは次のように語る。

「ドイツの家族と初めて長い期間離れて暮らし、以前よりもっと家族のことを大切に思えるようになりました。それは会えないからこそでしょう。また、日本から自分の国を見ることで、ドイツのいいところと悪いところ、両方がわかるようになりました」

どの国の派遣生もユリウスさんと同じことを思うという。中には、親への感謝の手紙を送る派遣生もいる。

マリーさんは「親善大使としてどのように行動すべきかを常に考えています。そういったことから、有限である時間の使い方も学べていると感じています」と話す。

フィンランド出身のエミリアさんは、少し違った視点から、青少年交換で学び取ったことを教えてくれた。

「国は違っても、やっぱり同

じ人間なんだなということを感じることできました。自分もみんなと一緒になんだということがわかり、いまはすごく自信を持てるようになりました」（エミリアさん）

青少年交換プログラムを通じて、日本人だけではなく、同じく参加しているさまざまな国の仲間とも出会える。ユリウスさんは言う。

「日本でいろいろな人と交流を重ね、自分自身がどのような人間であるかを学んでいるような気がします」

期間が終わり、帰ってきた派遣生は青少年交換学友（ROTEX）と呼ばれる。新たに日本に来る外国人派遣生のサポートをするなど、帰ってきてからもロータリーとのつながりは途絶えない。

青少年の育成を通じて未来のロータリアンを育てるのが、国際ロータリーの目的の1つだ。まさに、青少年交換とは、それを実現するための重要なプログラムとなっている。



派遣候補生の出発準備研修はたっぷり時間をかけておこなう



北海道西部のロータリアンを歓迎するタイ・アムナートチャルーン県の住人

国際ロータリー第2510地区はタイ東北地区、ラオスとの国境に位置するノンカイ県で国際奉仕活動を約20年にわたり続けている。
地元ロータリークラブと共同で実施しており、これまで学校や病院に浄水器を設置する「水事業」や、識字率向上を目指した小学校の「図書館事業」などがおこなわれてき

た。以前設置した浄水器が故障するケースも出てきているため、フィルターの取り換えなどのリペア事業も展開している。
また、タイの病院に人工透析器を寄贈。糖尿病患者が急増しているタイだが、治療設備が整うのは人口の多い大都市が先で、地方の病院はまだまだ治療態勢が不十分だ。こ

うした状況を把握している第2510地区では、タイ郡部の病院へ優先的に人工透析器を贈っている。
洪水防止のため河川に小型の堰、いわゆる「チェックダム」を複数設置。こうした幅広い活動を通じて北海道とタイのロータリアンの深い友情が育まれてきた。
2014―15年度からは新

恵まれない子どもたちに衣食住、教育機会を提供する同スクールだが、大きな問題も抱えている。一部の卒業生が犯罪や売春に巻き込まれてしまったりケースが存在するのだ。
また、この地域では若者が大都市・バンコクに流失し、

◎国際奉仕・VIT タイの教育・ 医療を支える

国際ロータリー第2510地区（北海道西部）の国際奉仕の主な舞台はタイだ。同国東北部にある王立の「ロイヤルキングスクール」で恵まれない子どもたちに職業訓練の機会を提供。地域経済の発展に貢献している。

たな事業をスタートさせた。舞台はさまざまな理由で親元を離れた子どもたちが暮らす「ロイヤルキングスクール」だ。

タイ国王が設立した同スクールでは小学生から高校生が教育を受けながら共同生活を送っている。中には、保護されたタイ語を話せない山岳民族もいるという。

恵まれない子どもたちに衣食住、教育機会を提供する同スクールだが、大きな問題も抱えている。一部の卒業生が犯罪や売春に巻き込まれてしまったりケースが存在するのだ。
また、この地域では若者が大都市・バンコクに流失し、



タイの図書館の設備充実をサポート

人材確保が課題となっている。こうした現実を聞いた第2510地区の会員は、子どもたちの自立、若手人材の確保のため、タイの地元の政財界や学校関係者、ロータリアンとともに立ちあがった。

そうして始まったのが「タイ貧困学生のための就職面接会および識字語学教育を伴う職業訓練キャンプ」だ。

日本とタイの両国による専門家集団を結成し、15年3月と8月に同スクールへ派遣。中高生を対象に「料理」「洋裁」「有機農業」の職業訓練を実施した。

教科書の作成や、週2回の訓練授業を時間割に組み込む

ことにも取り組んだ。子どもたちは専門家から知識や技術を学び、自立したプロになるための総合力を養っている。

その後、地域と学校、ロータリークラブが協力して職業紹介イベントや学生レストラフフェア、作品販売などを開催。地元の人たちに子どもが身につけた技能を深く理解してもらおうきっかけづくりもおこなっている。

このような職業訓練を企画しているチームは、ロータリー用語で「VTT」（ボケーショナル・トレーニング・チーム）と言う。

第2510地区の国際奉仕・VTT委員会が最終的に

目指しているのは、地元企業との集団面接会を開き、訓練を受けた学生たちを就労させることだ。

また、イベントなどで得た売上げを、事業の継続・レベルアップするための基金として利用する仕組みづくりにも着手している。

これと同時に、指導者の育成もおこなっており、これらの進捗状況は第2510地区の会員が現地に行って確認する。

現在は同スクールだけではなく、船舶をつくる職業訓練

校にタイ語のプログラムを導入する試みもスタートさせている。タイ語が話せないカンボジアやラオスといった近隣国出身学生のための事業だ。

職業訓練とは違うが、第2510地区ではロイヤルキングスクールの成績優秀者30〜40人に対し、1人3000〜5000円の奨学金を与えている。この金額で1年間の学費は十分まかなえるという。

これまで紹介した国際奉仕・VTT事業は、すべてタイのRCとの信頼関係の上で成り立っている。

第2510地区の会員が直接現地のニーズをすくい上げ、事業を実施。毎年見直しをかけ、奉仕活動の質の向上に努めている。

将来的には、タイのロータリークラブのエリアに組み込まれているラオスやカンボジアでの国際奉仕も視野に入れているという。実際、昨年は試験的にカンボジアの病院へ人工透析器を寄贈した。



第2510地区がタイの学校に寄贈した浄水器(上)と地方の病院へ送った人工透析器

ロータリークラブ
の取り組み

5

ロータリー財団（以下、財団）は1917年、当時の国際ロータリー会長のアーチ・克蘭フ氏の提案により設置された基金だ。最初の寄付額は26^{ドル}50^{セント}だった。そこから克蘭フ氏の「私たちは自分のためだけに生きるべきではありません。誰かに『よいこと』をする喜びのために生きるべきです」というビジョンのもと、世界中のロータリーアンによる奉仕活動を支え、若者を支援し、ポリ

◎ロータリー財団

世界でよいことを するための基金

26^{ドル}50^{セント}の寄付金からスタートしたロータリー財団は2016-17年度に100周年を迎えた。ポリオ撲滅活動に多大な貢献を果たし、世界中の人道支援プロジェクトを支え続けてきた財団は、奉仕の精神を受け継ぐ若者の育成にも力を入れる。



ロータリー財団の補助金を使った教育の推進

オ（小児まひ）撲滅を実現に近づけてきた。

2016-17年度に創立100周年を迎えた現在、財団は「平和の推進」「疾病との

戦い」「きれいな水の提供」「母子の健康」「教育の推進」「地元経済の成長」の6つの分野に重点を絞って活動している。また、これらの重点分野の活動に力を貸してくれる若人の育成も推進している。国際ロータリー第2510地区でも、財団の「グローバル補助金」制度などを利用した若者支援を実施。この補助金は長期的に成果が期待できる大規模国際的活動を支えるもの。奨学金や人道支援に用いられ、重点分野に関する研究のため、大学院または同等

の研究機関に留学する若者を応援している。これまで第2510地区を通じて財団の支援を受けた若者たちを紹介する。高橋侑子さんはグローバル補助金奨学生として、イギリス・ノーリッチ大学大学院に留学した。フェアトレードなどによる発展途上国の支援を研究し、現在はタイで就職。ロータリーがタイ東北地区で実施する奉仕事業などに参加している。「財団の奨学金がなければ留学は難しかったので、勉強を続ける機会をいただけて本当



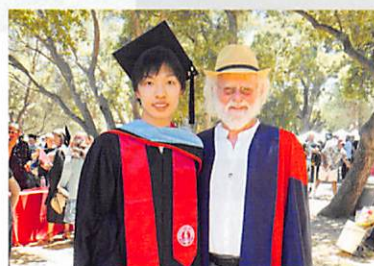
財団の重点分野である「きれいな水の提供」

によかったです。そして、留学中には現地のロータリークラブのさまざまな人にお世話になりました。ほかの奨学金事業と違うのは、留学が終わってもロータリーのつながりであるいろいろな人に出会わせていただけることです。それがあったからこそ、いま自分が満足できる環境にいられると感謝しています」（高橋さん）

グローバル補助金の奨学金事業は、必ず留学先の地元ロータリーと共同で実施することとなっている。そのため、現地のロータリアンがしっかりとしたサポートをおこなってくれるという。



アメリカ・スタンフォード大学大学院に留学中の永嶋知紘さん



高橋侑子さん(上)と神成満月さん(下、前列左から2人目)



札幌で通訳として活躍中のプーワナット・スパークンさん(左)

アメリカ・スタンフォード大学大学院に留学中の永嶋知紘さんは、教育環境が整っていない国の子どもたちや成人に向けた、効果的な通信衛星教材の開発・研究を進めている。永嶋さんも高橋さんと同様に、財団奨学金の魅力は現地のロータリアンとの交流だと感じている。

「私はカリフォルニア州ロス・アルトスロータリークラブの人たちとの交流を通じて、現地で実施されている教育プログラムや、カリフォルニアにおける経済的、社会的な格差について理解を深めることができました。これらは比較

的恵まれた家庭からの学生が集まる留学先では得られない知見であり、自身の関心である教育へのアクセス拡大を考える上で、非常に有益な学びとなりました」（永嶋さん）

オーストリア・ウィーン・ノイシュタット専門大学院への入学準備中の神成満月さんは「(第2510地区の)委員会などに出席すると楽しいお話をたくさん聞くことができます。オーストリアのロータリーの人たちもとても協力で親切。これからいろいろな活動に参加するのが楽しみです」と心を躍らせている。

神成さんは、多くの難民・

移民を受け入れているオーストリアで、地域のニーズと若い層を中心とした難民の就労・教育を有効に結びつけるマーケティングの研究をおこなう。

札幌で通訳として働くタイ人のプーワナット・スパークンさんは、第2510地区がタイ東北部でおこなった両親と暮らせない子どもたちへの職業訓練教育事業に通訳として参加。財団の補助金を受けた奉仕活動を通じて、日本の社会に対するイメージが変わったという。

スパークンさんは「日本で社会人になると生活が厳しいというイメージがありました。しかし、ロータリーで人に対する奉仕の心をもって人々に出会いました。自分も工夫して同じような心を持って、どの社会でも楽しく意味のある生活が送れることを勉強しました」と語る。

財団はこれからも奉仕の精神を若い世代に伝えていく。



「ロータリー米山記念奨学会」は1952年に東京ロータリークラブ（以下、RC）が「米山基金」として始めた外国人留学生を支援する民間最大の奨学団体だ。

国際ロータリー第2510地区米山記念奨学委員会が実施した研修旅行

ロータリークラブの取り組み 6

◎米山記念奨学会

日本と世界を結ぶ「懸け橋」

国内のロータリー全地区の共同プロジェクト「ロータリー米山記念奨学会」は、日本と世界の「架け橋」となる人材を多く育ててきた。国際ロータリー第2510地区（北海道西部）も米山奨学生を全力でサポートしている。



財団設立50周年を記念したロゴマーク

「日本のロータリーの創始者・米山梅吉氏の偉業を記念し、後世に残る事業を立ちあげたい」という東京RC会員たちの思いは瞬く間に日本全国へ広がった。

57年には全国組織「ロータリー米山奨学委員会」が結成され、60年に現在の名前に改称。そして67年、悲願だった

財団法人となった。現在は公益財団法人となり、国内のロータリー全地区の共同プロジェクトとして、存在感を発揮している。

ところでなぜ外国人留学生支援なのか。米山奨学会史には次のように書かれている。「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を

世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」

二度と戦争という悲劇を繰り返さないため、日本と世界の「架け橋」となり、平和の種をまく人材を育てる米山奨学会の奨学金は、返済義務がない。



2017年10月の地区大会で会場に設置した米山記念奨学会ブース

指定校となっている大学院の博士課程2、3年には月14万円、修士課程1、2年にも同額が支給される。大学の学部3、4年と医・歯・獣医学部5、6年などには月10万円、短大、高専生には月7万円となっている。

奨学生になるためのハードルは高く、担当教員の推薦は

必須。それだけではなく、経歴、成績、そして異文化への理解を深めようとする意欲も問われる。倍率は3倍を超えるとされている。

2017年度の奨学生数は793人で、事業費は13億円となっている。これまで支援した奨学生数は累計で1万9808人（17年7月現在）。世界125の国と地域からやってきた外国人留学生を支援してきた。

最大の特徴は「世話クラブ・カウンセラー制度」だ。奨学生一人ひとりに地域のRCが務める「世話クラブ」が割り当てられ、その会員の1人が「カウンセラー」となり、日常的な相談役を担う。

奨学生は月に1度、世話クラブの例会に出席。会員との交流を通じて、ロータリーの奉仕の精神を学ぶ。これが「米山奨学会は金だけではない」と言われる理由だ。

一方で、奨学生からは「安心して勉強に集中できる」と

高評価を得ている。また、厳しい条件をクリアして受けられるこの奨学金に対する、あこがれも持っているという。

国際ロータリー第2510地区は17年度、16人の奨学生を受け入れている。出身国は中国、韓国、ウクライナ、マレーシア、インドネシア、シंगाポール、モンゴル、ベトナムと多岐にわたる。

彼らは盆踊り大会やボランティアイベントなど、地域の催しものにも積極的に参加してくれるという。

第2510地区米山記念奨学会委員会は毎年研修旅行を開催。北海道の文化に直に触れるため、地元の酒蔵やものづくり企業を見学。また、カウンセラーとの交流を深め、より世話クラブに馴染んでもらうという狙いもある。

元・現奨学生によって組織されているのは「学友会」だ。現在、日本に33、海外に9、計42の学友会が存在し、北海道にも1つある。学友会は奨

学期間終了後も、ロータリーとの縁をつなぐ重要な役割を担っている。

学友の中には、カウンセラーを自分の結婚式に呼んだり、世話クラブのある土地に、新婚旅行で訪れたりする人もいる。実際、第2510地区内のRCのあるカウンセラーは、台湾の学友の結婚式に出席したことがあるという。

歴史的にも、世界に類を見ない日本独自の事業を支えているのは、全国のロータリアンの定期寄付金と、個人、法人、RCからの任意寄付金だ。道内在住の学友は委員会の要請により、大学などがないため世話クラブにはなれない地域のRCを訪問。自らの体験談を交え、米山記念奨学会への寄付の感謝と重要性を説いている。

17―18年度は財団設立50周年の節目の年となった。米山記念奨学会はこれからも「平和と国際理解の推進」を目指していく。



タイの小学生と記念撮影をした国際奉仕・VTT 委員会メンバー



子どもたちは民族衣装姿で出迎えた



の道民の森と、タイ北東部で植樹をおこなった。
2510地区は浄水器や医療器具の寄贈、人材育成など

タイの子どもたちと 600本の植樹

国際ロータリー第2510地区（北海道西部）には2600人の会員がいることから、2600本の植樹を実施することが決まった。

具体的なプランとして各クラブ独自の活動以外に、地区を窓口とした石狩管内当別町

ロータリークラブの取り組み

120万本の植樹事業

今回紹介するのは全世界のロータリークラブが協力して実施している120万本の植樹事業。イアン・ライズリー会長が地球温暖化を危惧し、各クラブの会員数と同じ数の植樹をおこなうよう呼びかけたことに起因する。



会員は子どもたちと協力して植樹をおこなった

を介して約20年にわたってタイと親交がある。地元ロータリークラブに相談したところ、教育の一環として23の小学校で合わせて600本を植えてもらえることになった。
生育環境などを調査するため2017年5月に国際奉仕・VTT委員会メンバーがタイへ出向き、プレ植樹をおこなった。その後の経過が順調で手応えを感じたことから同年12月から18年1月にかけて本格的に展開。
タイの土に根付きやすい種



類の苗木と木枠を提供し、会員は地元の子どもたちとともに植え付けをおこなった。植えられた木は、子どもたちが小学校を卒業するまで世話をしてくれることになっている。

道の事業に賛同 「ロータリーの森」

一方、道内では盛大な植樹祭が開かれた。旗振り役を務めたのは2510地区社会奉仕委員会。各クラブの活動にアドバイスを送ったり、内容をフィードバックしながら活性化を促す存在である。

植樹際には35クラブが参加、会員やその家族など、約300人が集まった



道民の森・神居尻地区の広大な土地に計1500本の苗木を植え付けた



大規模な植樹をおこなう候補地を北海道へ相談したところ、水源の森づくりへの参画を勧められた。

水源の森づくりとは、石狩振興局森林室が当別町の道民の森・神居尻地区で展開している事業。長期間にわたって牧草地として利用されてきた場所を道民の参加協力によって、水源地域としての森林機能を回復させるとともに、環境教育実践の場として活用することを目的としている。

これまで多くの企業や団体が同事業に協力しており、2510地区もこの趣旨に賛同。今回の植樹祭開催を決めた。

イベントは17年9月9日に実施された。天気予報では雨の心配もあったが、開催への強い思いが通じたのか、空は晴れわたたり、最高の植樹日和となった。

地区内の35クラブが集結。会員とその家族、並行して実施された青少年セミナーの参加者を合わせた約300人が植樹祭に参加。ロータリーの森」と記された記念プレートも設置された。

0・75畝もの広大な傾斜地にアカエゾマツ、ハンノキ、ヤチダモをそれぞれ500本ずつ、合計1500本の苗木を植樹。作業の手ほどきを受けながら手分けをし、約30分ほどで植え終えた。

植え付けた苗木が順調に育つよう、今後は管理を委託した造園業者と協力しながら森づくりをしていく予定だ。



ロータリークラブの取り組み 8

RACは次世代のリーダーを育成

ローターアクトクラブ（以下、RAC）とは、18歳から30歳までの青年男女によって組織される団体である（現在は年齢上限なし）。ロータリークラブ（以下、RC）と同様に会員は奉仕と親睦をテーマに多岐にわたる活動をおこなっている。

RACは現在184カ国で



ポリオ撲滅を呼びかける募金活動をおこなうローターアクトクラブ会員



第2500地区（北海道東部）のローターアクトクラブとの交流会も実施している

ローターアクトクラブ 増強を目指す

今回紹介するのは国際ロータリークラブ第2510地区（北海道西部）が2018-19年度に展開を広げたい青少年奉仕事業。その中でもローターアクトクラブの増強を目指すローターアクト委員会の活動に迫る。

1万900以上のクラブが存在し、会員数は25万人を超えている。第2510地区では最大16クラブが存在していたが、いまでは5クラブ。会員数も約40名まで減少している。同地区の川下和光ローターアクト委員長は、次のように話す。

「RACはボランティアだけをおこなう団体と認知されることが多いのですが、異業種交流や同世代交流の場でもあります。企業や地域で活躍する次世代のリーダーへと成長するために、必要なことが学

べます。私も在籍していたのですが、現在のRC活動に役立つています」

第2510地区の5つのRACは、RCの事業に参加するほか、独自に地域の清掃活動や保育所慰問、チャリティ事業などを実施している。さらに各クラブが毎年新しい事業を立ち上げる努力をおこなっている。

2020年-21年度には同地区のRACがホストを務める「全国RAC研修会」が開催される予定だ。同研修会は国内のRACでは最大の行事。



日本全国の33地区から120人以上の会員が集まるとい
う。しかし、現状の40名では
開催準備に不安があり、会員
増強は急を要する。

地区内に新クラブ 設立が目標

本来はRCと密接な関係に
あるRACだが、第2510
地区ではRC会員から活動内
容や存在自体が認知されてい

ローターアクトクラブのメンバーはロータリー
クラブ会員と交流する機会も多い



30歳を超える会員のため
に卒業式がおこなわれる



第2510地区の懇親会では各ローターアクトクラブ
が活動実績を報告する



ないことがあるという。
「RACのメンバーにはたく
さんのRCの奉仕活動に積極
的に参加するよう命じていま
す。そして自分たちの活動内
容をホームページで報告して
います。RACの存在を知っ
てもらうためには自ら情報を
発信したり、コミュニケーション
を図ることが大切です」
(川下RAC委員長)

同地区でRACが減少した
背景にRCの会員減少も関係
する。各RACにはスポンサ
ーを務めるRCから事業予算
が支給される。その額は年間

約40万円だが、スポンサーク
ラブ自体の会員が減少し、予
算確保が困難になったケース
もある。この現状を打開する
ため委員会は複数のRCでス
ポンサーを務める「共同提唱」
を推進している。RACへ支
給する予算を分担することが
可能でRACが参加する行事
も増える。

川下委員長は「RACの共
同提唱は全国的に増加傾向で
す。われわれ委員会は、当地
区で今年度中に最低1つのR
ACを新設することを目標と
しています」と話す。

ロータリークラブの取り組み 9



ポリオによる小児マヒを患った子どもたち

ロータリーにとって ポリオ撲滅は使命

ポリオ（急性灰白髄炎）とは感染病の一種。ポリオウイルスは人の口内から進入して腸内で増殖。排出された便を介して他の人間に感染する。成人でも感染するが、とくに5歳未満の乳幼児がかかりやすい。

腸管に進入したウイルスが脊髄の中まで入り込むことで手足にマヒ症状があらわれる。

◎ポリオ・プラス委員会

ポリオ根絶を

目指して

かつて日本でも大流行したポリオは、国際ロータリーが主導する予防活動により、根絶が見えてきた。発症数は活動開始後最も小の22件。残り0.1%との戦いは正念場を迎えている。



国際ロータリー第2510地区ではポリオ撲滅のためキャンペーンを展開

いまこそポリオ撲滅のとき

ポリオ(小児まひ)は、体がまひしたり、命を落とすことさえある病気です。



国際ロータリーでは、資金集めをしたり、ワクチン投与をしたり、長年にわたって、ポリオの撲滅に取り組んできました。1988年、国際ロータリーは、世界保健機関(WHO)、ユニセフ、アメリカ疾病対策センター(CDC)とともに、世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)の発足に際しました。2013年から2018年の5年間国際ロータリーは、世界ポリオ撲滅活動の総額計画として費やしており、命あなただの寄付は、ロータリーを通じて100%より多くの資金の拠出の努力により3倍になるキャンペーン中です。

野生ポリオウイルスによる感染が続いている国は1988年には128カ国でしたが、現在アフガニスタン、パキスタンの2カ国です(2016年8月現在)。0.1%まで減少した今、根絶しなければ二度と根絶はできないと言われております。国境を超えて人が行き来をする現代、ほかの国にもウイルスが流入して



ポリオ撲滅にご支援を

ポリオの理解、関心を深めるためチラシを作成

最悪の場合は呼吸筋が機能せず死に至ることもある。ただし、このような症状が出る感染者の割合は1%未満。90~95%は何も異変が起らない。4~8%は風邪のような症状(発熱、下痢など)にとどまる。しかし、特効薬は存在しないため、複数回にわたってワクチンを接種することのみが身を守る方法である。

ポリオ患者の人生を描いた映画「プレス しあわせの呼吸」は道内でも上映された



日本では1950年代後半から大流行。患者数は約6500人にもものぼった。北海道では60年に夕張で集団感染。瞬く間に全道、全国へ拡大した。このとき道内では1609人のマヒ患者と1006人の死亡者が出た。その後、国内では63年からワクチンの定期接種がスタートした。

国際ロータリーは世界的なポリオ根絶に大きな貢献を果たしてきた。創立80周年を迎えた85年2月に、ポリオ撲滅活動をおこなうと発表。86年7月から5年で40億円を目標に、募金活動を開始した。結

地域のイベント会場で募金活動を実施



果は目標金額を大きく上回る49億円の寄付金を集めることに成功した。

さらに88年、第41回世界保健総会において、ポリオを全世界で撲滅する決議が採択された。これを

受け、国際ロータリーやWHO、ユニセフなどが主導する「世界ポリオ撲滅推進計画」がスタート。その後、88年に35万件あったポリオ発症数は、2018年10月には22件と、99%以上減少している。

WHOによる撲滅宣言が出されているのは米州(94年)、日本を含む西太平洋(2000年)、西欧(02年)、インドを含む東南アジア(14年)の4地域。残るはアフリカと東地中海地域だ。

16年までポリオの常在国だ

ったナイジェリアでは17年、年間発症者数がゼロになった。19年もゼロの状況が続けばアフリカに撲滅宣言が出される。

現在もポリオ患者が毎年生まれている常在国はパキスタンとアフガニスタンだ。

13年4月、世界ワクチンサミットが開催され、国際ロータリーは同年から18年までの5年間、「ポリオ撲滅最終戦略計画 END POLIO NOW」というプロジェクトを開始。

紛争や宗教的障害がある地域へのワクチンの輸送や医療従事者の確保、研究所の設備などには、多額の資金が必要になる。同計画を通じて資金面の支援を強化することで、最後の0・1%との戦いにポリオドを打とうと活動を続けている。

撲滅活動を強化 再流行は絶対阻止

世界的なポリオ撲滅運動に

合わせ、国際ロータリー第2510地区(北海道西部)にも14~15年度にポリオ・プラス委員会が設立された。

同地区内の各ロータリークラブは会員による寄付のほか、参加する地域イベントでの募金活動を実施。18年にはポリオ患者の人生を描いた映画「プレス しあわせの呼吸」が上映され、会員による鑑賞会も催された。

同地区ポリオプラス委員会の伊藤利道委員長は次のように語る。

「日本では30年以上もポリオ患者は出ていません。しかし、国会で審議されている入管法改正案が成立すれば、今後ますます外国人労働者の数は増えるでしょう。万が一、その中にポリオ感染者がいた場合、日本国内で再流行する可能性もあります。それだけは絶対に阻止せねばなりません。残りの0・1%に打ち勝つため、ポリオに対する理解が深まることを望んでいます」

ロータリークラブの取り組み 10

安平町での目録贈呈式

安平町道の駅 2019年春オープン予定

安平町役場



国内外のクラブから多数の義援金

2018年9月6日、最大震度7という巨大地震が北海道を襲った。全道でブラックアウト、札幌市や北広島市では液状化現象が起こった。震源にほど近い胆振管内の厚真・安平・むかわの3町はとくに被害が大きく、大規模な土砂災害や家屋倒壊によって

胆振東部地震 復興への奉仕

国際ロータリー第2510地区（北海道西部）は、2018年9月6日に発生した胆振東部地震の被災地支援を目的とした「災害対策委員会」を発足させた。今回は同委員会による支援内容を紹介。今後の活動プランにも焦点を当てる。



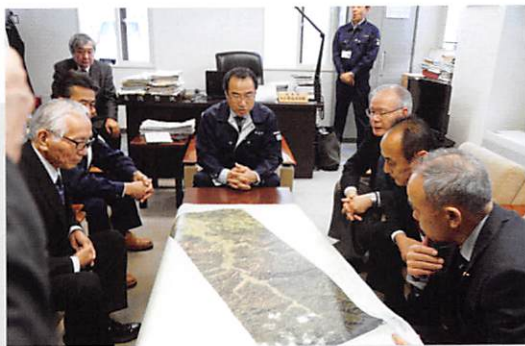
竹中喜之むかわ町長（左手前から2人目）から現状説明を受けるロータリー第2510地区の関係者ら

多くの死傷者が出た。これまで第2510地区は、東日本大震災（11年）や熊本地震（16年）、西日本豪雨（18年）など、国内で発生した大規模災害に義援金を送ってきた。また、胆振東部地震では、崎永剛会員（長崎北RC）から3000食のレトルトカレールの提供などのほか、

国内外のクラブから多くの義援金が寄せられた。その総額は19年2月時点で約4000万円となっている。そこで同地区では新たに「災害対策委員会」を設置。社会奉仕委員長の高山和宏氏（札幌東RC）が委員長を兼務することになった。

「ただ義援金を送るだけではなく、ロータリーらしい支援とは何かと、協議を重ねました」と高山委員長は話す。同委員会は甚大な影響を受けた前出3町への支援を決断。

厚真町に寄贈した軽自動車。生活指導員の移動手段として活用



厚真町の土砂災害の規模を航空写真で確認

厚真町「ランタン祭り」点灯式(2019年2月)



参加者は厚真町名物のジンギスカンを味わった



ランタンを並べてつくった「1♡A ツマ」の文字

しかし、3町にはロータリークラブが存在しないため、苫小牧市など近郊のクラブへ協力を要請した。その助力を得て、18年11月6日に宮坂尚市朗厚真町長、及川秀一郎安平町長、竹中喜之むかわ町長と面会。各町の現状や課題などを把握できたという。

「国や道から復興事業に対する補助金は出ていたが、教育や福祉の分野には予算が付きづらい状況でした。ロータリーはその分野で支援することになりました」(高山委員長)

各町へ500万円ずつ寄付。支援内容は以下の通り。

【厚真町】町で仮設住宅入居者の心のケアのため生活指導員を2名採用したが、移動手当てがなかったため、新車の軽自動車を2台寄贈。同町在住の小中学生のメンタルケア事業開設に必要な備品の購入。

【安平町】被災して校舎が使用できなくなった早來中学校の仮設校舎整備費用の一部を負担。

【むかわ町】鶴川高校の学生寮が使用不可となり、仮設寮

建設費の一部を寄付。

継続的支援と地域住民との交流

18年12月25日に関係者が勢ぞろいして3町を訪問。目録の贈呈式をおこなった。

「支援は一時期なものではなく、復興に向けて継続していかねければならない。段階に応じたニーズを聞き入れながら、できれば人の交流も実施したい」(高山委員長)

その第1弾として、毎年2月に厚真町で開催している「ランタン祭り」に協力。ランタン製作に必要なバケツやロウソクを支援した。同祭りに地区内の各クラブから会員やその家族、約90人が参加。地元住民とジンギスカンを味わいながら交流を図った。

高山委員長は「今後、地区内の各クラブが被災地支援の事業を新たにおこなう場合、委員会をサポートしていきたい」と話す。



国際ロータリー 第2510地区

全70クラブの 活動

深川

青少年育成の尽力

深川RCは1959年に創設され、2019年に60周年を迎える。その記念事業の一環として深川市の社会福祉協議会に移動用の車を寄贈する



深川RCの会員ら

予定だ。

同RCは地域の青少年育成に力を入れている。15年ほど前から毎年実施してきた事業が「プレーパーク」だ。

プレーパークとは、自然の中でできるだけ制限をかけず、子どもたちが、やってみたくて、と思った遊びを自由に楽しめる場所のこと。同RCでは材料や工具類を用意。市内近郊から集まった100人以上の小中学生が思いのままの遊びで楽しんでいる。

このほか、北海道日本ハムファイターズのベースボールアカデミーと協力して少年野球チームを対象とした野球教



北海道日本ハムファイターズのベースボールアカデミーによる野球教室

室も開催している。さらに19年は米山奨学生として北海道大学に通うフィンランド人女性を受け入れる。同RCの事業に参加してもらう予定だ。

「深川RCが実施する
プレーパーク」



〒074-0004
深川市4条9番40号 深川市地域
交流施設プラザ深川3F
電話 0164-34-6228
FAX 0164-34-6228

「継続は力なり」を体現する献血運動

人口約7000人のまちに会員が46人いる。おそらく人口比率からすると第2510地区ナンパーワンだろう。そんな46人の会員が一丸となり、地道な奉仕活動が続けている。その代表例が創立の1979年度から現在まで継続している献血運動だ。

年に3〜4回、地元で実施される日本赤十字社の献血をサポートする。羽幌RCの会員は自治体や企業、団体を訪問。協力依頼をおこない、献血者に提供するジュースなども用意する。熱心な活動が評価され、同RCの献血運動は86〜87年度に厚生大臣賞、99

〜2000年度に厚生労働大臣賞を受賞。もちろん会員も積極的に献血する。130回以上献血した猛者もいる。

かつては少年サッカー大会も主催。89〜90年度には、ドイツのスーパースター選手、ゲルト・ミュラー氏らをゲストに迎えたこともあった。99年以降はサッカーから少年野球大会に切り替え、砂川や稚内などの他地域からもチームが参加する。

河川跡地にある「羽幌ピオトーブ」では、自然保護団体と協力し、桜の植樹を実施。これまでの経験から、土壌改良に力を入れている。

羽幌RCの会員ら



この活動も気づけば10年ほど続く。まさに同RCには「継続は力なり」の精神が根付いている。

ゴルフやマージャン、カラオケなどの愛好会活動も盛んにおこなわれており、例会以外でも顔を合わせる機会が多いという。

〒078・4113
 苫前郡羽幌町北3条1丁目29番地
 羽幌温泉サンセットプラザ
 電話 0164・622・3800
 FAX 0164・622・4512

妹背牛

7人の侍が地域に根付いた活動を実施

2016年に創立50周年を迎えた妹背牛RCの会員数は第2510地区で最小の7人（18年）で、自らを「七人の侍」と称する。

11年から開始した救急リレーバトン事業には、他のRCから強い関心が寄せられている。独居老人の健康状態や病歴、服用薬、家族の連絡先などを記載した用紙を筒状のケースに入れ、冷蔵庫に保管。駆けつけた救急隊員がそのバトン内の情報から迅速で適切な処置がおこなえるようにとつくられたものだ。

妹背牛町の社会福祉協議会と協力して、現在約1300

世帯中850世帯に配布している。

妹背牛町は古くからカーリングが盛ん。03年に「妹背牛カーリングホール」が開設された。同RCは05年から毎年3月に小学生から高校生を対象としたジュニアカーリング大会を開催。道内各地のチームが参加している。

このほか毎春、妹背牛小学校に入学する新1年生に黄色い傘の贈呈をおこなっている。町唯一の小学校に通学する児童の安全と健やかな成長を願っている。



冷蔵庫で保管されている「救急リレーバトン」(写真上)と、2018年3月18日に開催された妹背牛RC杯ジュニアカーリング大会の様相

〒079・0500
雨竜郡妹背牛町字妹背牛364・
21 妹背牛商工会館内
電話 0164・32・2025
FAX 0164・32・2003

留萌

地元のビッグイベントで存在感を発揮

留萌RCには祭り好きが多い。1991年から地元のビッグイベント「るもい呑涛まつり」に毎年参加。留萌市街の目抜き通りを練り歩く「やん衆あんどん行列」を、クラブ所有の「大あんどん」で大いに盛り上げている。

この大あんどんは同RCのオリジナル作品。祭り開催日の1カ月ほど前から会員総出でメンテナンスや飾り付けをおこなっている。

祭り当日は多くの若者に引き手や笛、太鼓の演奏を手伝ってもらっているという。楽しむ機会を与えるのも、青少年奉仕の一環だ。

また、あんどんの側面には

「End Polio Now」と書かれた看板がつけられている。さらに「ポリオプラス」とプリントされたシールをお菓子に貼り、あんどん行列の際に、沿道の子どもたち配っている。全世界のロータリークラブが目指すポリオ撲滅運動を留萌市民に知ってもらうための活動だ。

祭り以外にも、特別支援学級への支援も継続。クリスマス家族会や合同学習発表会、

宿泊研修会の費用援助や、生徒たちとの交流を図っている。

例会の直前には「3分間情報」なるものが会員に提供さ

留萌RC所有の大あんどんと会員たち



「るもい呑涛まつり」ではポリオ撲滅のシールを貼った菓子を配った

れる。71年から続く取り組みで、歴代の「期待のルーキー」が担当してきたという。話されるのはロータリークラブの歴史や世界情勢など。会員自身があらためてロータリーに対する理解を深められる有効な手段だ。



〒077-0044
留萌市錦町1丁目1番15号 留萌
産業会館内
電話 0164-42-2058
FAX 0164-42-9000

赤平

ローターアクトともチームワーク抜群

赤平RCは2016年度、新たに6人の仲間を迎え入れた。会員は29人となり、40代も7人に増え、若返りが進んでいる。

赤平ローターアクトクラブ（RC）がサポートする18〜30歳の青年男女の奉仕クラブも非常に活動的で、赤平ではRCとローターアクトが一体となった奉仕事業が展開されている。

毎年、赤平市内小中学校の特別支援教室に通学する障害児童を招き開催しているのは「おたのしみクリスマス会」だ。ローターアクトが自立的に考えた内容をRCが全面バ

ックアップ。子どもたちが喜ぶイベントを、ともにつくりあげている。また、クリスマス会では地元の洋菓子店がケーキづくりに協力するなど、ローターアン以外の地域住民とも信頼関係を築いている。

さらに、同RCの会員が発案し、いまでは地域の一大イベントへと成長した「空知100kmウォーク」にも毎年協賛。ここでもローターアクトと手を携えて参加者に飲み物やお菓子を配っている。

同RC会員の半分以上が野球部に所属している。これも、チームワークの強化につながっている。

赤平RCが主催する「おたのしみクリスマス会」



〒079-1141
赤平市大町1丁目3 西出興業株
内
電話 0125-32-3116
FAX 0125-32-3988

芦別

60周年を迎え、さらに地域の青少年育成に尽力

2016年度に創立60周年を迎えた芦別RCは、記念事業として芦別市内の高校生、大学の学生計17人とともに台湾・台北市を訪問した。



幼稚園でおこなわれる芦別RCのユニークな例会

「日台友好青年の翼」と称したこの事業では、台北市内の中学生と交流を図り、台北RCの例会にも出席。初の海外クラブとの交流を終え、帰国後は旅先の思い出を生徒、学生が語る報告会も実施した。

また、もう一つの記念事業として始まったのが、10歳以下の少年サッカー大会だ。17年10月におこなわれた第2回大会では、参加した北空知地域の8チームそれぞれが日ごろの練習の成果を存分に発揮していた。

ほかにも芦別RCでは芦別高校の3年生のうち、就職を希望する生徒を対象に、模擬面接の場を設けている。就職内定を目指す上で必要な準備や心構えについて理解させることを目的として、12年から会員自らが面接官役を務めている。

芦別RCは今後もこうした活動を通じて、地元の青少年の育成に引き続き力を注いでいく。

ところで、ユニークな例会も実施しているという。その1つが幼稚園でおこなう例会だ。園児と手をつなぎロータリーソングの「手に手をつないで」を合唱。

子どもたちの歌声を聞いて涙ぐむ会員もいるとか。芦別RCは明るく、楽しい雰囲気をおこなっている。霧囲気を大切にしながら、奉仕活動をおこなっている。



芦別市内の高校生・大学生と台北市内の中学生が交流した

〒075-0031
芦別市南1条東1丁目11番地 芦別商工会議所内
電話 0124-222-3444
FAX 0124-222-2345

創立50周年に向け継続事業の更なる進化

砂川RCは「親子ふれあい体験学習」として、リンゴ狩りを実施している。

「三谷果樹園」（砂川市北吉野町）の真つ赤に実ったリンゴの収穫やゲーム、バーベキューなどを楽しむイベントで、同市内小中学校の特別支援教室の児童・生徒と保護者らが参加。「ノーマライゼーション」を実現するための事業と位置づけている。

もともと旭山動物園や小樽水族館などに行く日帰り旅行をおこなっており、2000年に現在の形となった。

同RCの会員以外に、果樹園の近隣の人たちも手伝いに

きてくれる。生徒たちからのリクエストで、もちつきは毎年外せない行事になっているという。

17年で17回目。同RCと地域の人とでつくり上げてきたこの事業を、今後も継続してよりよくしていく。

毎年秋には砂川高校の3年生に対し、会員が就職、進学をする上での心構えについて講演する出前講座を開催している。これも現在では地域の恒例行事となっている。

「継続」が同RCの奉仕活動を続けるテーマの1つだ。また、例会の出席率も90%超をキープ。会員は口をそろえて

「先輩・後輩の壁がなく、みんなで成し遂げる活動に大きなやりがいを感じている」と語る。

20年1月に創立50周年を迎える。いまから記念事業の準備に取りかかっているという。さらなる事業の進化が期待されている。



砂川RCの継続事業である「三谷果樹園」でのリンゴ狩り

〒073・0152
 砂川市東2条北3丁目1番1号
 砂川パークホテル内
 電話 01255・5273989
 FAX 01255・5274572

滝川

「そらぶちキッズキャンプ」の整備に尽力

87人の会員数（2016年）を誇る滝川RCは「そらぶちキッズキャンプ」への支援に力を注ぐ。

同キャンプは小児がんなど重い病気と闘う子どもたちやその家族を受け入れることができる、アジア唯一の医療ケア付き自然体験施設だ。



2009年に寄贈した休憩小屋

場所は滝川市江部乙町丸加高原にあり、08年から整備が進められてきた。その後、3年の月日を要し、12年に本格開園を迎えた。

同RCでは08年の当初から支援をスタート。同RC出身の渡邊恭久氏がガバナーを務めた09―10年度は、国際ロータリー第2510地区全体でサポートをおこなった。

これまでに記念碑やスノーモービル、休憩小屋、ツリーハウスにつながる木道の整備、まきストロブ、果樹などを寄贈。そして、16年9月29日、新たに「ジップライン」につながる木道が完成した。ジップラインとは森の中に張ったワイヤーを滑車で滑り降りる遊具。同キャンプでは、車いすが必要な子どもでも遊べる仕様になっている。

こうしたハード面の支援と並行して、実際におこなわれるキャンプにも、会員はボランティアスタッフとして参加。今後も継続して同キャンプを応援していく。

ほかにも、JR滝川駅のホームにエレベーターを設置する運動を滝川商工会議所などとともにおこなったり、同駅に待合室を設置するなど、貴重な地域貢献活動を繰り広げている。



滝川ロータリークラブがそらぶちキッズキャンプに寄贈した木道

〒073・0032
滝川市明神町2丁目2番16号 ホ
テルスエヒロ709号室
電話 0125・222・3344
FAX 0125・242・2755

美唄

地域の若手の活動を陰ながらサポート

2017年度の会員には90代が4人、80代が13人いる。とにかく元気で長生きなのが、美唄RCの特徴だ。クラブの雰囲気は厳格でありながら、活動についてはベテランたちも積極的に参加している。

ロータリー米山記念奨学会やロータリー財団への1人あたりの寄付額が多く、これまで多数表彰を受けている。

また、周年を迎えるごとにモニュメントを建立。JR美唄駅前広場には、宮島沼に集うマガンをモチーフにしたモニュメントや、石川啄木の歌碑を設置し、市に寄贈した。

市内の学校や図書館にリク

エストされた本を贈るなどの地域に根ざした活動も展開。

今後は桜ロードプロジェクト推進会議への協賛も予定している。また、美唄青年会議所の青少年育成事業「ジュニア・アクト・クラブ（JAC）」に対しては、開始当初から援助を実施している。

JACとは、市内に住む小学5年から中学3年の児童・生徒が参加する事業。炭鉱やまちの歴史を学ぶプログラムや、サイクリングなどの自然体験などを通じて、青少年の豊かな人間性や社会性を育むことを目的としている。17年はJAC30周年事業として、

ベテランが躍動する美唄ロータリークラブ



台湾研修がおこなわれた。

このように、美唄青年会議所のOBも多くいる同RCは、JACのような若手主体の奉仕活動を見守る存在となっている。

美唄RCがJR美唄駅前広場に寄贈した石川啄木の歌碑



〒072-0025
美唄市西2条南2丁目2番3号
美唄ホテルズエヒロ内
電話 0126-622501
FAX 0126-634942

江別

伝統を守りながら次世代を育成

江別RCは1961年、第2510地区では36番目に創設された。2018年の会員数は33人で、平均年齢は62・7歳だ。

RCの格式や品位、活動目など、先人から受け継がれてきた伝統を大切にしながら組織の発展に注力している。



早苗別川の清掃活動

クラブ内の各委員会トップには若い会員を任命。若手のチャレンジをベテランがサポートしている。

同RCは約10年前から市内を流れる早苗別川の清掃をスタート。地元住民や立命館慶祥高校の生徒らとともに、ホタルの生息域を守っている。

さらに、福祉協議会を通じて市内の施設に車椅子や電動ベッドを寄贈。定期的にメンテナンスをおこない、長く使ってもらえるようアフターフォローもしているという。

00年からは国際奉仕活動も開始。ネパールのRCと協力して現地に「ネパール・日本



友情学校」を建設した。

異団体との交流も積極的に
おこなっている。江別市青年
会議所と合同例会を定期的
に実施。新会員獲得の重要ツ
ルとなっている。

〒067・0074
江別市高砂町10番地15
電話 011・382・0939
FAX 011・382・0936



江別RCと江別市青年
会議所の合同例会(上)
と、寄贈した車椅子を
メンテナンスしている
様子

江別西

丹精込めて育てたカボチャが大人気

江別西RCは、1992年に創設された。女性会員3人を含む30人（2018年）でさまざまな活動をおこなっている。

同RCの例会では、会員の手料理が振る舞われる。寿司やそばなど、さまざまなメニューが登場する。



中津湖の清掃活動

その中で、会員らがもっとも楽しみにしているのが、カボチャ。雉子谷明会長が栽培したものだ。

「食べてもらうなら、いいものを口にしてもらいたい」（雉子谷会長）と、5年前から育て始めた。無農薬にこだわり、使用する肥料も厳選。植え付けから収穫までの水やりのスケジュールを想定するほどの徹底ぶり。本業のかたわら、年間で90日以上は畑で作業しているという。

はじめは会員へのプレゼントト分だけを栽培していた。ところが、会員ではない地元住民にも評判が拡大。いまでは

バザー出店やテント設置など市内幼稚園の夏祭りをサポート



150個以上を育てており、そのすべてを無料配布している。このカボチャは、同RCが支援する市内幼稚園にも寄贈。給食のメニューとして園児に提供されている。



雉子谷明会長が栽培したカボチャ

〒067・0075
江別市向ヶ丘24番3 アステイオ
ン243 103号
電話 011・382・0081
FAX 011・382・0081

岩見沢

地元高校のインターアクトクラブを後援

岩見沢市や夕張市、栗山町、長沼町といった南空知地域に毎年「球春到来」を告げるのが「岩見沢ロータリー旗争奪・中学校選抜野球岩見沢大会」だ。2016年で25回目を迎えたこの大会は、南空知地域内の中学校野球部にとつ



岩見沢ロータリー旗争奪・中学校選抜野球岩見沢大会

て、新チームの「腕試し」の場となっているという。

このように中学生球児たちの成長を見守る岩見沢RCは、岩見沢緑陵高校の「インターアクトクラブ」への後援も積極的にこなっている。

インターアクトとは14歳から18歳の青少年が所属する社会奉仕団体のこと。すべてのインターアクトは、RCからの後援や監督を受けている。日本では高校の部活やボランティアサークルとして活動している場合が多い。

緑陵高校のインターアクトクラブの会員数は約50人。赤い羽根募金活動や歳末助け合

い運動への協力などを実施している。岩見沢、岩見沢東、栗沢の3RC共同でおこなっている「ふるさと百餅祭り」でのポリオ（小児まひ）撲滅運動にも参加。RCの活動に加わり、海外研修もおこなうなど、さまざまな機会を通じて、奉仕精神を学んでいる。国内最大の民間奨学事業である「ロータリー米山記念奨学会」への寄付は累計4000万円を超えた。

〒068・0004
岩見沢市4条東1丁目 北海道グリ
ーランドホテルサンプラザ4F
電話 01266・24・0700
FAX 01266・24・0020

岩見沢緑陵高校インターアクトクラブも参加した「いわみざわ百餅祭り」でのポリオ撲滅運動



岩見沢東

子どもの物を大切に作る気持ちを育む

岩見沢東RCは1999年から地元少年少女サッカー大会を後援している。会員たちはトロフィーなどの賞品や、ジュース、おやつなどを用意。パンフレット作成など、裏方として大会を支えている。

2012年には東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県の相馬市、南相馬市のサッカーチームを大会に招待。

当時の福島の子どもたちは、原発事故の影響から、自由に屋外でプレーすることができない状況だった。

そこで同RCは、相馬市、南相馬市のRCと連携し、サッカーチームを招待したとい

う訳だ。

福島の子どもたちは大会に参加したほか、旭川市の旭山動物園を見学し、夜はジンギスカンを食べながら岩見沢のサッカー少年らと交流した。

さまざまな理由で家族とともに過ごせない子どもたちが生活する児童養護施設への支援もおこなっている。その一環として、会員と子どもたちは春先から一緒にそばを育てている。

秋には刈り取ったそばの実を石臼でひき、手打ちそばをつくる。ちなみに、岩見沢東RCには「そば打ち名人」がいるという。種まきからそ



岩見沢東ロータリークラブが後援しているサッカー大会

ばづくりをはじめ、子どもたちの物を大事にする気持ちも育まれる。

北海道盲導犬協会への寄付なども実施。地域密着の活動を続けている。

〒068・0021
岩見沢市1条西2丁目8番2号
いわせん会館ビル3F
電話 0126・23・0945
FAX 0126・23・0945

栗沢

基本に立ち返り、ロータリーの輪を広めていく

会員19人（2017年）の栗沢RCは和気あいあいとした雰囲気の中、奉仕活動をしている。地域の環境美化に積極的に取り組み、北海道社会福祉事業団の福祉村（岩見沢市栗沢）の花壇整備は、福祉村が開設した1979年以来、継続して実施している。

脳性まひなどの身体障害者が利用する福祉村と栗沢RCのつながりは深く、花壇整備のほかにも、活動計画書や報告書の印刷も発注。多方面から支援している。

また、JR栗沢駅前から国道234号までの道路清掃も長く続いている労力奉仕だ。

創立50周年の記念事業では地元の吹奏楽団「レルシア」に対し、楽器の購入費を寄付。現在は全道トップレベルの少年野球チームとバレーボールチームに対しての資金援助もおこなっている。

東日本大震災で被災した福島県川俣町の中学生や高校生と、栗沢中学校の生徒らがサッカーを通じて交流する「キヨマッププロジェクト」にも協賛。ちなみに「キヨマップ」とは、栗沢駅の旧名「清真布」からきている。

このように、地域の活動とかわり合う姿勢を保ち続けてきた同RC。以前は会員増

栗沢RCがおこなっている北海道社会福祉事業団福祉村での花壇整備



強に力を注いできたが、17年度からは基本に立ち返り、会員同士の親睦を深め、ロータリーの輪を広めていくことに重きを置く。

T068・0127
岩見沢市栗沢町本町11番地 いわ
みざわ商工会内
電話 0126・45・2002
FAX 0126・45・4655

栗山

木製バットの原料を育てる植樹に参加

2019年に50周年を迎えた栗山RCは、空知管内栗山町内にある「栗の樹ファーム」の植樹に参加している。

14年からスタートしたこの事業は「アオダモ資源育成の会」が主催。栗山中学校野球部や地元の少年野球チームなどとともに、同RCの会員たちも、木製バットの原料となるアオダモを植えている。

もちろん、栗の樹ファームに住む北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督もこの植樹に参加している。野球少年たちには、栗山監督の直筆サイン入り写真カードが配られるという。

栗の樹ファームでの植樹に参加した栗山RCの会員たち

これまで同RCは少年野球大会などを実施してきたが、17年度からは、あらたに絵画コンクールを開催。小中学生に栗山町のいいところを描いてもらい、10月に表彰式がおこなわれる。

また、大工を中心とした「栗山町の匠たち」が主催する「匠まつり」にも協賛。そこでおこなわれる「木育」を人的にも資金的にもサポートしている。

さらに、毎週1度の防犯パトロールを継続するなど、地



域と一体となった奉仕活動に今後も取り組んでいく。

〒069・1511
夕張郡栗山町中央2丁目1番地
栗山商工会議所内
電話 0123・72・1278
FAX 0123・72・4001

当別

高校生の就職率アップに貢献

当別RCは、アットホームな雰囲気が自慢のクラブ。29人の会員（2018年）がいろいろなアイデアを出し合っている。

当別町では「北のひな飾り展」というイベントを開催。18年で6回目を迎える地元商店街のまちおこし事業だ。町



当別RCのメンバーら

民が一つひとつ手づくりしたつるし雛を町内各所に展示。

同RCは製作費用などを負担している。このほか町内の雪祭りや花火大会などのイベントにも積極的に参加している。

同RCの特徴的な事業の一つに当別高校の生徒への面接指導がある。同校は卒業後、就職を希望する生徒が多く、面接試験の練習に力を入れている。以前は同校教員が面接官を務めていたが、より実践的な内容のほうが効果的だということと同RCが協力の会員が面接官を務める。

辻野浩会長は「最初は質問に答えられなかった生徒が練



習を重ねるうちに受け答えできようになるようになりました。当別高校の先生たちからも『面接試験での合格率が上がった』と好評をいただいています」と語る。

〒061・0223
石狩郡当別町弥生1091 棟田
西会館内
電話 0133・222・0575
FAX 0133・222・0575

当別町「北のひな飾り展」(上)と、当別高校の生徒に面接指導をおこなう様子



札幌

歴史と伝統を誇る道内ロータリーのパイオニア

東京、大阪、名古屋、神戸、京都、横浜、広島に次いで、日本で8番目のロータリークラブとして誕生した札幌R.C。創立は1932年。初代会

長には元北海道帝国大学総長で北海道農会会長だった佐藤昌介男爵が就任した。道内の主要都市や札幌市内のクラブ誕生に数多く尽力し、2017年に創立85年目を迎えた。会員数は約130人。そのうちの約30%は道外大手企業の支店長や支社長だ。同R.Cは、未知のまちに赴任してきた人々との友情の輪を広げるべく、サロンのな役割も担う。こうした交流が道内経済の発

展にも寄与している。

たしかな歴史と伝統を誇る一方、敷居は決して高くない。ベテラン、中堅、若手が1つにまとまり、お互いを尊重しながら、和気あいあいとした例会が開かれている。

45年間続いている職業奉仕事業「若い人と語ろう会」は、全国のR.Cから高い評価を得ている同R.Cの代表的な活動だ。会員の事業所の若者を集め、さまざまな体験や語り合いの場を提供。17年2月の語ろう会では、札幌グランドホテルで調理体験をおこなった。また「北海道いのちの電話」などにも長年協賛している。



札幌グランドホテルで開かれた「若者と語ろう会」での調理体験

〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌はまなす

少人数でもダイナミックな活動を展開する

「親睦を大切にし、友情あふれるクラブ」と表現される札幌はまなすRCは、2017年6月6日に創立25周年記念式典を盛大に開催した。21人の会員で地域に密着した奉仕活動をおこなっている。

毎年8月には少年野球ナイター大会「はまなすカップ」を主催している。札幌市、石狩市、北広島市などから集まったチームが2日間のトーナメントを戦う。

この大会は、会員にリトルリーグ関係者がいたために始まった。同RCを中心に、保護者やチーム関係者自らが運営し、さらに地元企業の協賛

を得て開催している。

一度はナイターで試合を試してみたいという野球少年の心をつかむと同時に、日中仕事をしている共働きの保護者からも「家族みんなで応援できる」と大好評を得ている。さらに17年は、クラブ創立25周年を記念してつくられた優勝旗が初披露された。

同RCは17年、5年ぶりに米山記念奨学会の外国人留学生を受け入れた。そのほかに、ロータリー財団への寄付やポリオ撲滅活動などにも積極的に取り組んでいる。

アットホームなクラブの雰囲気は、他クラブから訪問し

てきたロータリーアンが口をそろえてベタほめするほど居心地がいいという。

国際ロータリー第2510地区からの寄付要

請にもすぐさま対応する。このように、少人数でも団結し、活発な奉仕事業が展開できることは、RCとして自慢できる大きな特徴だ。



札幌はまなすRCが製作した少年野球大会の優勝旗

〒001-0908
札幌市北区新琴似8条1丁目1番
45号 坂田ビル3F
電話 011-736-6616
FAX 011-736-8322

札幌北

スリランカの子どもたちにもたちらちにも保健教育支援を実施

札幌北RCには豊富な国際支援の経験を持つ会員が多く存在する。その特徴を生かし、現在も独自の国際奉仕活動がおこなわれている。

特筆すべきは、スリランカへの奉仕だ。もともとは会員である北海道大学名誉教授の小林博氏が個人的に始めたものだった。長年にわたり、スリランカの保健医療の向上や学校環境の改善に貢献。その活動に賛同した札幌北RCの有志も同国を訪問し、病院用のベッドや医療機器の贈与などをおこなってきた。

2014年に「札幌北ロータリークラブ スリランカ子

ども基金」を設立。これを用いて、スリランカ南部にある貧困農村地帯の小学校6校に保健教育支援を実施している。

子どもたちが主体となって家族や地域の健康増進に取り組めるように、喫煙や食事といった生活習慣や、水、トイレの環境などについて指導。これらのプロジェクトは同国のコロンボRCと協議・協力しながら継続的におこない、札幌北RCの会員は毎年現地を訪れ、検証している。16年にはコロンボ郊外の地域中核総合病院が、眼科の検査で使用する細隙灯を破格の廉価で入手できるよう尽力した。

ところで、札幌北

RCには「品格向上委員会」がある。30代、40代の会員が多く、半分以上がRC歴10年以下であるため、ロータリアンとしての心構えや、社会奉仕の意義などを勉強する機会を設けているという。

一方で、90代の現役会員もおり、その元気な姿が、若い会員に刺激を与えている。



スリランカの奨学生に実施している保健教育支援

〒060・0807
札幌市北区北7条西5丁目6 ス
トークマンション札幌906
電話 011・7000・4511
FAX 011・7000・4512

札幌モーニング

地区内唯一の朝例会開催クラブ

1989年に創立された札幌モーニングRCは、国内で5つ、第2510地区内では唯一、朝例会をおこなっている。毎週水曜日の午前7時30分からラジオ体操で体をほぐすことから例会はスタート。会場の「センチュリーロイヤルホテル」の20階から眺める朝日は格別だという。

同RCは「カミネツコン植樹」を2004年から継続し



子どもたちと一緒に「カミネツコン植樹」

ている。カミネツコンとは、土に帰る再生段ボールを折り曲げて成形した中空六角柱のポットのこと。これに培養土と苗木を入れる。カミネツコンを使用することで穴を深く掘らなくても簡単に根付かせることができるという。

同RCではこれまでに、保育園児や小学生とともに1万3000本以上のサクラやミズナラ、ドングリなどを札幌市内に植樹してきた。

このほか、青少年奉仕にも注力。同RCが提唱する札幌龍谷高校インターアクトクラブの活動を支援する。約10年前からスタートした台湾への

出席者全員でおこなう朝例会でのラジオ体操



研修旅行に同RCの会員が行く。最近では卒業後に就職を希望する同校生徒のために、会員の職場でのインターンシップを実施。好評につき、今後も継続していく方針だ。

札幌龍谷高校インターアクトクラブの台湾研修



〒060・0005
札幌市中央区北5条西6丁目 第1道通ビル1F
電話 011・242・3360
FAX 011・219・1308

札幌西

笑顔が絶えない奉仕活動の軸には「音楽」がある

札幌西RCは、札幌医科大学出身者が中心となり、1960年に創立された。

2016―17年度は「Smile west」（笑顔の



「ピンクリボンロード」の会場となった札幌三越前で合唱を披露

絶えない例会作りを求めて）をスローガンに掲げ、さまざまな事業をおこなっている。

中でも音楽を通じた奉仕活動は同RCの大きな特徴だ。

札幌のRCの中で唯一のコーラス部は、会員の妻たちを含め約30人が所属。元同RC会長で札幌音楽家協会会長の両貝尚子氏による指導を受け、毎年、全国ロータリー親睦合唱祭に出場している。

また、乳がんの早期発見・診断・治療のための啓発運動を促進している「ピンクリボン in SAPPORO」が毎年開催する「ピンクリボンロード」にも参加。歩行者

天国となった会場で合唱をおこない、市民との親睦も深めている。

東札幌病院（札幌市白石区）の緩和ケア病棟では慰問音楽会も開催している。終演後、患者たちは笑顔で「また来てね。ありがとう」などと声をかけてくれるという。こうした言葉は、同RC47人（17年の会員にとって、奉仕活動をする上で何よりの大きな励みになっている。



東札幌病院での慰問音楽会

〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北
海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌西北

動物園を盛り上げる特別記念事業を実施

2016―17年度に40周年を迎えた札幌西北RCは、初代会長が唱えたスローガン「明るく楽しく出席しやすいクラブ」を現在まで受け継いでいる。

創立40周年の特別記念事業として16年9月、札幌市円山動物園に「フォトリックアート」を寄贈した。キリンやカバ、ゾウなどさまざまな動物たちが立体的に見えるイラストで、大規模新施設「アフリカゾーン」の開業に合わせて設置。訪れた市民らに喜びを与え、動物園をさらに盛り上げたいという思いが、このフォトリックアートには込めら

れている。

一方、15年以上継続しておこなっているのは、札幌市西区の三角山に建てたあずまやの保守・点検作業だ。

もともと同RCが寄贈したもので、作業は毎年1度実施しており、お年寄りや子どもなどの登山客に安らぎの場を提供し続けている。

大通公園3、4丁目の噴水周りのプランターも寄贈しており、その維持事業も10年以上にわたって実施。地域の緑化活動にも貢献している。

今後、同RCでは「スペシャルオリンピック」への支援もおこなう予定。これは知

的障害のある人

たちに年間を通じてスポーツトレーニングと競技会を提供する国際組織で、オリンピックと同様に4年に1度夏季・冬季の世界大会を開催している。

同RCの奉仕活動の幅はこれからもさらに広がっていく。

〒060・0054
札幌市中央区南4条東4丁目2番
1号 さくら総合会計ビル2F
電話 011・2000・2066
FAX 011・2000・2067



札幌市円山動物園に寄贈した「フォトリックアート」

札幌手稲

スポーツ大会と奨学金事業を30年以上継続

札幌手稲RCは1982年から「ロータリー杯争奪西区手稲区中学校スポーツ大会」を開催している。2017年で節目の35回目を迎えた

中学校の非行化が深刻化した昭和50年代、同RCのエリア内にある札幌市西区の中学校も例に違わず、校内暴力がたびこつていた。それを目の当たりにした当時のロータリ

アンがこうした状況を打開しようと発案したのがスポーツ大会だったという。

学校などからの理解を得るまでには相当な苦勞を重ねたそうだが、いまではエリア内の中学校にとって、中体連予選の前哨戦という重要な大会として定着している。

また、同RCは83年から「高校生奨学金支援」をおこなっている。

対象となるのは家庭の厳しい経済事情などにより、部活動をあきらめたり、学習時間がアルバイトに奪われたりしている生徒だ。

支給金は会長を始めとする

ロータリアンが自ら各高校に赴き、対象となる生徒に手わたしている。顔が見えるところというのが、この奨学金の特徴だ。

毎年2月の例会では奨学金を支給している高校生を担任の先生とともに招待している。生徒の中には感極まり涙を流しながら、どれほど助かったかを話す人もいるという。



スポーツ大会では3位までに入った生徒全員にメダルを贈呈する



札幌市西区の中学バドミントン部は道内でもトップクラスの実力

〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北
海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌東

「インナーホイールクラブ」とともに奉仕を実施

会員数133人を誇る札幌東RC。2016―17年度は5人増強した。しかし、女性会員は1人もいないという。

いつでも女性が会員になれる態勢となっているのだが、それでも女性会員がゼロというのは「札幌インナーホイールクラブ」があるからだ。

インナーホイールとは1924年、イギリス・マンチェスターRCのロータリアンの妻たちによって創立され、47年以降に国際組織となった世界最大の女性奉仕団体。現在103カ国に3865クラブがあり、10万人以上の会員を有する。

札幌インナーホイールクラブは札幌東RCの会員の妻たちが中心となり、他クラブのロータリアンの妻たちにも声をかけて、99年に日本で初めて創立された。札幌東RCの年末家族会でおこなわれるチャリティーバザーに手づくりケーキを出品し、得た収入は寄付するなどの活動をおこなっている。

インナーホイールクラブと札幌東RCは、互いに支え合いながら地域社会に貢献しているのだ。

また、札幌市の白石土木センターで毎年夏におこなわれる「月寒川にぎわい川まつり」

八木友美札幌インナーホイールクラブ会長(左から2番目)、白石正勝札幌東RC会長(同3番目)ら

に参画。一人親家庭の親子を招待し、屋台の手伝いや川遊び体験を通じて、親子の絆を深める機会を提供している。



〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北
海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌清田

地域住民と密接な関係を築く

清田区が設置された1997年に創立した札幌清田RCは、地元町内会とのつながりを大事にしてきた。

2000年に札幌市から土地を借り受け、パークゴルフコースを造成。地域住民との親睦を目的とする大会を主催してきた。現在は大会の場所を平岡公園に移したが、会員と町内会から100人ほどの愛好者が参加。賞品も同RCが用意している。

07年には清田区誕生10周年記念として清田区役所市民交流広場前に花時計を寄贈。毎年、花の植え付けをしながら管理をしている。

そのほか、15年から始めた奉仕活動は「ふれあい絵付け教室」。絵付けを趣味とする会員がいたことがきっかけで企画された。

町内会と連携しながら老人ホームで実施。陶芸の先生に素焼きのカップを用意してもらい、参加者が思い思いに絵付けする。毎回30人前後が集まり、好評を博している。

同RCは会員同士のまとまりがよく、家族のように本音で語り合える間柄だという。創立20周年を迎えた17年は、メンバー有志で温泉旅行へ出掛けた。

一方、課題は会員の増強。

大勢の地域住民が参加する札幌清田RC主催のパークゴルフ大会



チャーターメンバーは46人だったが現在（18年）は14人。「若い人を入会させれば良い」と言われることもあるが、すぐに脱会されては元も子もない。周囲の人へ入会の声かけをおこないつつ、面接などで慎重な人選を続けていく。



2015年から始めた人気の「ふれあい絵付け教室」

〒060・0004
札幌市中央区北4条西15丁目1番
14号 コアレックスビル5F
電話 011・632・5303
FAX 011・632・5308

札幌南

「暗唱大会」で地域の親子の絆を深める

祖父母、親、子どもの3世代が参加する「親子暗唱大会」

札幌南RCは毎年11月に「親子暗唱大会」を開催している。目的は地域の子どもの国語力を養うこと。そして親子で大会に出場してもらい、練習段階から絆を深める機会をつくることだ。

第1回は札幌市立豊平小学校でおこなわれ、豊平区・清田区の小学生ら30組57人が参加。第2回からは同RCの会

員がいるルネッサンスサポートホテル（現プレミアムホテルTSUBAKI札幌）で実施されており、現在は園児も加わっている。

審査員は大会を後援している札幌市小学校長会や道内放送局のアナウンサーなどが務める。題材は自由。これまで詩や短歌、教科書掲載作品の一節などのほか、日本国憲法前文を暗唱した参加者もいたという。

また毎年5、6月ごろには「なんでも相談会」を開催している。弁護士、精神科医、不動産鑑定士など、多彩な顔ぶれがそろった同RCならではの

の事業だ。

また、札幌市内で唯一の18歳から30歳までの若い世代が所属する「ロータリアクトクラブ」、さらに本格的

なRCに移行する前の「衛星クラブ」の親クラブにもなっている。18年11月、その衛星クラブが「札幌ライラックRC」として認証。第2510地区70番目のクラブを誕生させるという快挙を成し遂げた。



「なんでも相談会」は札幌駅南地下歩行空間で開かれる



札幌真駒内

親睦のクラブとして台湾との交流を深める

現在23人（2016年）の会員で活動する札幌真駒内RCは1974年に創立された。伝統的に国内外の他のRCとも交流が盛んな「親睦のクラブ」といえる。

とくに台湾との交流は第2510地区の中でもっとも深いものとなっている。

同RCが30周年を迎えた04年に台北大同RCと友好クラブとなり、13年には姉妹クラブへと発展した。11年には台北大同RCと共同で台湾・金門島の高齢者施設に障害者用のマイクロバスを寄贈するなど、海を越えた奉仕活動を展開している。

14年の創立40周年記念式典には台湾から約50人のロータリアンが参加した。16年6月は友好クラブの京都桂川RCと台湾・三重中央RCとの3クラブ合同例会が札幌で開催された。このように、毎年最低でも一度は友好クラブ間で行き来をしている。

16年6月には台北大同RCの会長経験者である謝長廷氏が台北駐日経済文化代表処代表に就任。以前から交流のある札幌真駒内RCの役員は11月に謝氏を表敬訪問した。

また、道立真駒内公園に八重桜を植樹したり、北海道交通遺児の会への寄付をおこな

京都桂川RCと姉妹クラブを締結



うなど、地域社会への貢献活動も実施している。今後はこのような国際交流、社会貢献をより進めるため、会員増強に力を入れる。

〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌南

受け継がれる「和やぎの精神」

札幌南RCは1956年6月に創立された。札幌市内では2番目に古い歴史を持つクラブだ。現在は92人（2018年）のメンバーで構成されている。



2018年10月に札幌でおこなわれた地区大会に出席した札幌南RCの会員ら

同RCには発足当時から脈々と受け継がれてきた「魂」が存在する。それが「和やぎの精神」だ。和やぎとは、創立当時に在籍していた会員らによる造語。「和やか」「安らぎ」という心の穏やかさを表現する意味と、相手を思いやる気持ちや謙虚さが含まれているという。

同RCの福山恵太郎会長は次のように話す。

「クラブ創立時の先輩方としても個性豊かな人ばかりでした。協調性を持つために生まれた言葉が『和やぎ』です」

これを基本スタンスとして同RCのメンバーは、人との

つながりを大事にしながらロータリー活動をしている。

同RCが長年継続して実施している事業が「ひとり親家庭クリスマス会」への支援だ。札幌市母子寡婦福祉連合会と協賛して子どもたちへプレゼントを用意している。



「ひとり親家庭クリスマス会」で子どもたちにプレゼント



家族行楽会で親睦を図る

〒060・0002
札幌市中央区北2条西4丁目 北
海道ビル902
電話 011・231・1297
FAX 011・222・2744

札幌大通公園

他クラブにはない、特色が盛りだくさん

札幌大通公園RCは2001年に創立。現在は14人（18年）で構成されているが、ほかのクラブと比べると異色の体制をとっている。

年会費が7万2000円と低く設定。年4回に分けて納入する決まりになっている。金銭的な負担が少ないため、在籍メンバーの年齢が非常に若い。青少年育成もロータリー活動の重要な事業と考え、学友をメンバーとして受け入れている。

週に1度開かれる例会でも食事の用意はしない。17年度からは1カ月に1度、各自が食べ物を持ち寄る「ほっとパ

札幌大通公園で「ポリオ募金活動」をおこなう札幌大通RCの会員たち

ーティー」を実施。費用を節約しながら親睦の機会を設けている。周囲からは「個人的なクラブ」と言われることもあるようだ。

同RCが力を入れている事業は年に1回街頭で呼びかける「ポリオ募金活動」。ただ寄付をするのではなく、自分たちで実際に汗をかいて奉仕活動をするという意図のもと、03年からスタート。クラブ名にもなっている「札幌大通公園」でおこなっている。



〒065・0023
札幌市東区北23条東13丁目1番10号
大藤シール株式会社内
電話 011・753・5131
FAX 011・753・5132

札幌ライラック

若い会員多く、国際性豊かな新生クラブ

衛星クラブ時代からチベットの子どもたちに文房具を送る活動を続けている

国際ロータリーへの正式な加盟が2018年11月21日という第2510地区でもっとも新しいクラブだ。15年に札幌幌南RCの衛星クラブとしてスタート。親クラブの指導を受けながらも、独自の活動を3年間続けた。

衛星クラブとは、国際ロー



外国人会員が出身国の料理を振る舞うフードパーティーは異文化に触れられると人気

タリー規定審議会が13年に議決した制度。若年層の参加促進を目的に、既存クラブ内に衛星クラブを設立できるとし、3年限定の活動期間を経て正クラブに移行できるといふもの。衛星クラブはその目的から、会費が本クラブより安く、活動も自分たちで考えておこなえるという柔軟性もあって14人が集結した。

正クラブとなった18年には、会員数は21人まで増加。しかも半数は女性で外国人会員も多いという特徴がある。実際過去に米山記念奨学金を受けていた外国人が「恩返しをしたい」と入会する人も。中国

人、韓国人、イタリア人の会員がいて、平均年齢も若い。

そうした背景から、藻岩山清掃など地域への奉仕のほか、チベットへ文房具を送る活動や、外国人会員が出身国の料理を振る舞うフードパーティーといった国際色豊かな取り組みを実施。入会しやすい雰囲気づくりに努めるなど、この「ニューフェイス」には新しいRCの姿を予感させるものがある。

〒060・0062
札幌市中央区南2条西6丁目14
大友ビル4F・E
電話 050・5806・2032
FAX 0134・32・1274



新札幌

伝統的に新世代奉仕活動が盛ん

2019年に創立35周年を迎える新札幌RC。在籍年数による上下関係がなく、アットホームな雰囲気自慢だ。

「みんなでやろうや」を合言葉に、入会して3、4年のメンバーが幹事や会長を務めるケースもある。

例会ではホテルのコース料



「月寒川にぎわい川祭り」に参加した新札幌RC会員ら

理が振る舞われる。食事のおいしさもアピールポイントで「興味がある人は気軽に遊びに来てほしい」と会員の一人は話す。最近では「ワイン例会」も開催。会員以外の人もゲストとして招き、メンバー増強の有効な手段としている。

同RCは若い世代に対する奉仕活動が活発。米山奨学生と交換留学生の派遣受け入れを毎年のようにおこなってきた。これまでに台湾、アメリカ、カナダ、オーストラリア、フィンランドの青少年を受け入れてきている。

社会奉仕活動として17年で21回目を迎えた「月寒川にぎ

わい川まつり」に白石区ふるさと会と協賛して毎年参加。子どもたちが川を散策し、水辺の生き物の生態を学ぶことができる。

さらに、小学生と20カ国の外国人が交流する「子どもワンダーランド」にも毎年参加している。ほかにも児童養護施設へおもちゃの寄贈などもおこなっている。

同RCは親睦活動も盛んだ。北広島市の農家での枝豆狩り体験や納涼親睦家族会、年末親睦家族会には会員家族のほか、交換留学生や米山奨学生なども参加している。



農家の畑で枝豆狩りをして親睦を深めている

〒004・0052
札幌市厚別区厚別中央2条5丁目
4・35 新札幌駅前ハイツ202
電話 011・801・1311
FAX 011・801・1312

岩内

地元の特色を生かす

岩内RCは、道内40番目のクラブとして1962年に創立された。現在は女性1人を含む20人の会員が在籍（2019年）する。

同RCでは「チャレンジプログラム」を実施している。これは会員が自ら定めた目標を達成できなければ「罰金」を支払うというもの。「お金をただ寄付するのではなく、何か意味合いを持たせたほうがいい」ということでスタートしたという。

岩内町はかつて「絵のまち」と呼ばれていたこともあり、地元の子どもたちに絵に親しみを持ってもらうため、10年

「小学生手作り絵本コンクール」の発表・表彰式



度から「小学生手作り絵本コンクール」を開催している。町内の小学3年生から6年生が対象で個人やグループでも参加可能だ。18年度からは岩内町だけでなく、共和町、泊村、神恵内村の小学生も対象に加えた。その結果、22人が参加し、11作品が集まった。提出された全作品に賞が贈ら

れ、町内絵本館で展示された。さらに、毎年7月に開催される岩内神社例大祭の前に、会員らで参道清掃を実施している。

〒045・0013
岩内郡岩内町字高台121・3
吉田会計情報センター内
電話 0135・623355
FAX 0135・622544



岩内神社の参道清掃(左)、岩内RCの会員ら

倶知安

国際的な事業を通じて地域に貢献

創立は1964年で、2014―15年度に50周年を迎えた歴史あるクラブだ。

16―17年度の会員数は42人。大正生まれから平成生まれまで、幅広い年齢層のメンバーがそろう。

地元はいまや世界的リゾート地となっている。クラブも時代に合わせて、国際的な活動を積極的におこなってきた。その1つが「チャリティーハンバーガー」だ。

グランヒラフスキー場のゲレンデ内でクラブオリジナルのハンバーガーを外国人観光客に販売。また、外国人が利用する各スキー場から新千歳

空港に向かうバスへ、募金箱も設置した。これらの売上げや寄付金は東日本大震災の復興やポリオ（小児まひ）撲滅運動に役立てられている。こうした取り組みは寄付だけではなく、クラブの活動のPRにもなった。

16―17年度は青少年の健全育成事業として、地元の子どもたちに英語での観光案内コンクールを開催する予定となっている。

さらに、地元の外国人事業者からの提言を受けて動き出した事業もある。それが、生活困窮者への食料配給だ。具体的には、ひらふ地区の

コンドミニアム利用者が残した缶詰やスパゲティ、油などの腐らない食料品を回収し、母子家庭協議会などを通じて配布するというもの。まだ計画段階ではあるが、新たなチャレンジの実現に向けた議論は活発におこなわれている。

こうした活動をする上で男女の区別はまったくない。13―14年度の会長・幹事はともに女性が務めた。女性に開かれたクラブであることも、特徴の1つだ。



旭ヶ丘公園周辺道路のゴミ拾い奉仕活動

〒044・0033
虻田郡倶知安町南3条西2丁目
ホテル第一会館内
電話 0136・22・1158
FAX 0136・23・2258

小樽

クラブの精神的シンボルである植樹事業

創立から80年以上の歴史を誇る小樽RCは、植樹に力を注いできた。

1964年にはクラブ創立



小樽RCが後援する音読カップ

30周年記念事業として、小樽市公園課とともに小樽花園公園整備事業を実施。地元の小学生の力を借りて、700本のシラカンバを植えた。これが現在の「ロータリーの杜」第1号だ。

その後、小樽花園公園以外にも、潮見台シャンツェや手宮緑化植物園、朝里ダム公園、朝里川などで植樹をおこなってきた。これらロータリーの杜は同RCの精神的シンボルになっている。ただ、長い月日がたつにつれ、ロータリーの杜の一部は荒れてきているという。今後は継続的な森林保全のため、間伐や枝打ちな

どの強化を図っていく。

また、同RCは地域の子どもの育成にも積極的にかかわっている。例えば、市教育委員会が主催する「音読カップ」を後援。市内の小学生から中学生まで参加するこのイベントでは「ロータリークラブ賞」を設けている。

戦前から続く歴史と伝統を大事にしながら、時代を超えて市民に愛されるまちづくり、これからも尽力していく。

〒047-0008
小樽市築港11番3号 グランドパーク小樽内
電話 0134-21-3111
FAX 0134-21-3401

千年の森に協力しての、
奥沢水源地での植樹



小樽南

各年代に合わせた青少年育成事業を展開

小樽南RCでは、1960年のクラブ創立以来、毎年2月に小樽市内の各高校から推薦された3年生を「小樽市内高等学校優秀卒業生」として表彰している。

学習成績のみならず、部活動や生徒会など、さまざまな分野で活躍した生徒を、これまでに600人以上表彰。2016年も13人を優秀卒業生として讃えた。同RCが主催する地域の恒例行事として今後も継続していく。

13年からは「小樽青少年国際交流会議」をスタートした。小樽商科大学の留学生と市民、大学生、高校生、中学生との

交流を促進させることが目的。講演や体験学習などがおこなわれ、複数のグループに分かれて実施されるディスカッションは、中高生にとつてより内容の濃い国際交流ができる貴重な機会となっている。

今後は将来のリーダーを育てる意味でも、徐々に運営を学生に任せていく予定だ。

14年からは、詩の創作を通じて小樽市内の小中学生の表現力を育む目的で開催されている「小樽こどもの詩（ポエム）コンクール」（市教育委員会、絵本・児童文学研究センター主催）を後援。

また、生後10カ月の赤ちゃん



2013年から始まった小樽青少年国際交流会議



んに絵本をプレゼントする「ブックスタート」事業も支援している。赤ちゃんから大学生まで、各年代の育成に今後も力を注いでいく。

毎年2月には「小樽市内高校優秀卒業生」を表彰している

〒047-0032
小樽市稲穂2丁目15番1号 オール
セントホテル小樽内
電話 0134-27-8080
FAX 0134-26-6935

小樽銭函

地域との密接な協力関係を構築していく

1975年に発足した小樽銭函RCは地域に根ざした活動を継続している。その最たるものが少年野球大会の開催だったが、参加チームの減少により2017年10月の大会をもって34年にわたる歴史に幕を下ろした。今後は新たな事業にチャレンジしていく。

15年からスタートしたのは「歩こう会」だ。秋空の下、地元を歩く健康的なイベントで、地域住民に参加を呼びかけ実施。参加者は8キロコースと4キロコースに分かれ、家族、友人らとともに楽しんでいる。また、16年12月にはフォトコンテストを初開催した。住

民全員が応募できるコンテンツで、地元の魅力を再発見してもらうことが目的だ。

当初、想定した数を大きく上回る作品が集まった。銭函や桂岡、張碓などで撮影された写真は、どれも地元の特徴がよくとらえられていた。最優秀賞、優秀賞、クラブ賞、入選に輝いた6作品は小樽信用金庫（現北海道信用金庫）銭函支店に展示された。そこにはすべての応募作品を閲覧できるファイルも置かれた。

さらに、小樽の冬の風物詩である「雪あかりの路」の主催にも加わり、雪像づくりなどを通じてイベントを盛り上

小樽銭函RCが主催する「歩こう会」は地元の魅力を再発見できるイベント



げている。

会員はもちろん、会員ではない地元商店の協力も得て、募金箱を置かせてもらうなど、地域との密接な協力関係をさらに強化していく。

〒047-0261
小樽市銭函3丁目298 医療法
人ひまわり会礼樽病院内
電話 0134-622-4676
FAX 0134-622-4676

蘭越

青少年育成を継続

2018年に創立50年を迎えた蘭越RCは、青少年の育成に力を入れる。とくに地元の児童養護施設への支援は30年以上続く伝統事業となっている。

毎年12月に慰問に訪れ、園生にクリスマスプレゼントを贈呈。サンタクロースの格好で訪れると、子どもたちは喜び、満面の笑顔を見せる。会員たちもその光景を見て心が癒やされているという。

17年に第1回蘭越町少年サッカー大会が開催された際には、優勝カップを寄贈した。これからも継続事業として大会運営にかかわっていく。

2018年6月におこなわれた創立50周年祝賀会

ほかにも百人一首大会に協賛したり、特別養護老人ホームへの慰問事業も継続。創立50周年記念事業として、町民センターへの自動血圧計の寄贈もおこなった。

このように、長年にわたり地域に密着した活動を展開している。会員は10人規模の小さなクラブだが、まとまり感、は抜群。第2510地区の国際奉仕にも参加し、タイの小学校への浄水器設置に汗をかいたメンバーもいる。奉仕活動への意識は高い。



〒048・1301
磯谷郡蘭越町蘭越町8・2 ふれあいプラザ21内
電話 0136・57・5437
FAX 0136・57・5576

金メダリストも参加した水泳大会を主催

余市RCの会員は40代が最も多い。毎週の例会は活気にあふれ、他クラブのロータリアンから「元気ですね」とよく言われるという。

同RCの特徴的な事業は4つ。1つ目は余市町全日本ジュニアサマージャンプ大会への後援だ。同町の「竹鶴シャイツェ」でおこなわれるこの



竹鶴シャイツェで実施される余市町全日本ジュニアサマージャンプ大会

大会には、小中学生時代の高梨沙羅選手や伊藤有希選手らも参加していた。また、毎年11月に開かれる美術書道展や俳句の集い、読書感想文コンクールも後援している。

2017年9月で34回目を迎えるのは「余市RC杯学童水泳大会」。種目別、メドレーなど通常の競技はもちろんのこと、まだ経験の浅い児童でも参加できるように、ビート板を使った競技も用意している。北後志管内の未就学児童、小中学生約60〜70人が参加。歴代の大会記録保持者の中にはスキージャンプ五輪金メダリストで同町出身の船木

和喜選手や、同RCメンバーの名前もあるという。

さらに、毎年10月中旬には障害者就労施設のNPO法人「余市はまなす」の園生や職員とともに、リンゴの収穫をおこなっている。JR余市駅前にある同施設の「はまカフェ」では、そのリンゴがきっかけでつくることになったアップルパイが売られている。余市を訪れたときは、ぜひ一度味わってほしい。

〒046・0003
余市郡余市町黒川町4丁目93 株式会社
毛利印刷内
電話 0135・21・4171
FAX 0135・21・4172



NPO法人「余市はまなす」の園生・職員とともにリンゴを収穫

千歳

千歳経済界に貢献し、森づくりにも自ら着手

1968年に創立した千歳RCは、幅広い年齢層の63人の会員（2017年）で奉仕活動を展開している。千歳市内の各業界の経営者や医師、歯科医師、司法・行政書士、大手企業の工場長、本州企業の支店長など多士済々なメンバーがそろう。

社会奉仕の一環として、千歳商工会議所永年勤続従業員



大事に育てられている「千歳ロータリーの森林（もり）」

表彰に合わせ「千歳ロータリークラブ会長賞」を出している。同会議所創立10周年を記念して70年11月からスタート。市内の商工業界において模範となる従業員を表彰し、千歳経済界の職業倫理の向上に貢献している。

また、環境保護にも力を入れており、91年には北海道森林管理局から千歳市蘭越の国有林から2万8110平方メートルの分収造林地を80年契約で借りた。RCがおこなう植樹事業としては珍しく分収造林組合を設立。その地を「千歳ロータリーの森林（もり）」と名付け、92年にアカエゾマツ

7300本を植栽した。

当初高さ40センチだった苗木は、いまでは15メートル以上に成長。毎年春と夏に雑木小枝・つる切りなどをおこない、大事に森を育てている。

17―18年度が創立50周年にあたる同RC。16―17年度の大西信也会長が示す方針「相手の気持ちになろう、ロータリーの気持ちになろう」を実践しながら、奉仕活動を続けていく。

環境保護の一環として分収造林組合を設立し森づくりを実践



〒066・0036
千歳市北栄2丁目2番1号 AN
Aクラウンプラザホテル千歳内
電話 0123・23・4470
FAX 0123・23・4600

千歳セントラル

新千歳空港国際線に募金箱を設置

1990年に創立した千歳セントラルRC。現在の会員数は41人（2018年）で、そのうち8人が女性だ。さらに18―19年度は、クラブ史上最年少かつ初の女性会長が誕生した。

クラブの雰囲気は和気あい



新千歳空港国際線に設置されている募金箱

あいとしており、経験豊富なベテラン会員が若い世代をサポートしている。

同RCでは1年間に数回、JR千歳駅周辺の清掃活動を実施している。

このほか、11年からは新千歳空港の国際線ターミナル内に募金箱を2台設置。両替ができない外貨コインの寄付を募っている。

そうした浄財のうち外貨はユニセフ、日本円は千歳市奨学金基金へ寄付している。その額は、日本円だけで年間20万円近くにまでなる。

同RCは97年に静岡県長の泉RCと友好クラブを締結し



た。長泉町は日本初のRCをつくった米山梅吉氏ゆかりの地である。会員らは米山氏の墓参りや記念館見学を実施している。

〒066・8520
千歳市本町4丁目4番4号 ホテルグランテラス千歳1F
電話 0123・26・5788
FAX 0123・25・9112



静岡県長泉町にある「米山梅吉記念館」を訪問(写真上)。JR千歳駅前の清掃活動(写真下)

恵庭

小中高大すべての年代の青少年育成事業を実施

恵庭RCは青少年の育成を目的として1970年に創立された。恵庭市内全8校に通う小学生を対象に毎年開いている子ども相撲大会は、地元の名物となっている。

豊栄神社の秋祭りに合わせ、2016年度まで連続28回開催。もともと神社が主催していた大会を同RCが引き継いだ。行司や勝負審判もロータリアンが務める。トーナメント方式でおこなわれ、子どもだけではなく、親も真剣な表情で応援を繰り広げるといふ。中学生を対象にしているのは少年野球大会だ。千歳市内と近隣自治体の中学生野球ク

ラブ20チーム前後が参加。多くの実戦経験を積ませている。

高校生を対象とした活動は、青少年交換留学生の派遣、受け入れだ。同RCは積極的にコミットし、これまでオーストラリア、アメリカ、カナダを中心に同市内の高校生24人を派遣、25人の留学生を受け入れてきた。

さらに、北海道文教大学に通う外国人留学生を対象とした米山奨学生のカウンセラーのサポートをおこなっている。

小中高大すべての年代を網羅した青少年育成事業に使う基金を積み上げるため、毎年サッポロビール北海道工場で

毎年夏に開かれるサッポロビール北海道工場の「おんこ祭」に参加



開催される「おんこ祭」に参加。やきとりやフランクフルト、やきそば、ホタテ焼きなどを販売し、資金確保に努めている。

まちの名物となった子ども相撲大会

〒061-1441
恵庭市住吉町2丁目3番21号 弘
中税理士事務所2F
電話 01233-32-2388
FAX 01233-32-6066

北広島

新しい事業に次々とチャレンジ

北広島RCは1980年に創立。現在は15人の会員が在籍（2018年）している。

10年以上前から少年野球大会と剣道大会を主催しているが、常に新しいことにチャレンジする気風があるという。その一例が19年の正月から



JR北広島駅周辺を清掃

スタートさせた餅つきだ。臼と杵を持参し、北広島市内にある複数の高齢者施設や児童養護施設を訪問する。早くもどの施設からも大歓迎を受ける活動となっている。

このほか、以前よりJR北広島駅前の清掃を毎年おこなっていたが、会員から「駅前はいろいろな人が清掃しているので場所を変更してはどうか」という意見が出たため、新たな清掃箇所を選定している最中だ。

毎週火曜の昼におこなわれている例会は、フランクな雰囲気だ。18年は、ここ数年開催されていなかった会

員らによる旅行を復活させる。

同RCの課題は会員増強。若い世代の入会を募集しており「積極的にやりたい事業を実現してもらいたい」と18年度の橘功記会長は話す。



北広島RCが10年以上前から主催している少年野球大会

〒061-1134
北広島市広葉町5丁目6番8号
電話 011-373-8892
FAX 011-373-8892

長沼

「国際交流フェスティバル」は地元の名物行事に

2016年に25周年を迎えた長沼RCの初代会長は女性だった。これは世界的にも極めて珍しいことで、設立当時には女性会員を増やそうと提唱していた国際ロータリー元会長のヒュー・アーチャー氏が同RCを訪れたほどだ。

初代会長は認証状伝達式で「小さな長沼から世界に眼を向けて」と宣言。これを具現化するために設立次年度から実施しているのが「国際交流フェスティバル」だ。

ロータリーアンからの寄付金を財源とする奨学金を受ける留学生「米山記念奨学生」や、青少年交換プログラムで海外

から道内に来ている留学生など、十数カ国の人々が参加する。

フェスティバルでは長沼町内の中学生が英語で歓迎の挨拶をしたり、会場内に設置された各国のブースを回り、その国の言葉で外国人とコミュニケーションをとるなどのイベントがおこなわれる。長沼高校の生徒も運営をサポートする。同RC主催の事業でありながら、いまや町全体の名物行事になっている。

天野敦子会長は「地域の子どもたちが国際感覚を身につけるきっかけとなればと思っています。小・中・高から大学

長沼RCが主催する「国際交流フェスティバル」



生まで、立場を変えながらも彼らが主体的に参画できるイベントにしていきたい」と展望を語る。

〒069・1343
夕張郡長沼町旭町南1丁目1番2号
KSインターナショナル2F
電話 0123・88・0801
FAX 0123・88・0801

高齢者施設での餅つき大会が好評

現在7人（2018年）の会員で構成されている由仁RCは、1992年に創立された。例会では主に町内の情報交換や新たな事業などについて話し合われている。

02年の10周年記念事業で町内に桜や栗の木を植樹した。いまでは大きく成長し、会員全員で力を合わせて管理している。



町内での植樹活動

毎年12月には、町内の高齢者施設で餅つき大会を実施している。入居者からは喜びの声が上がっている。

少人数での運営は大変なことが多く、存続が危ぶまれた時期もあった。しかし、元会員から「RCで話すのが楽しかった。やめないで頑張ってほしい」と言われたことで継続を決意。ロータリー活動を通じて結ばれたつながりを再認識したという。

さらにうれしいこともあった。同RCは交換留学生事業に積極的に取り組んでいる。これまでに5人がこの事業を利用して海外留学を経験した。

大好評の高齢者施設での餅つき大会



このうちの1人が町内で農業を営んでおり、18年から同RCに加入したのだ。

〒069・1205
夕張郡由仁町中央134 (南おおさか内)
電話 0123・83・2707
FAX 0123・83・3404

由仁RCの例会の様子



えりも

特殊な会員構成が特徴、驚異の例会出席率

第2510地区で、もつとも東に位置するえりもRC。2018年には4人の新規会員が加入して総勢20人となった。同RCには、大西正紀えりも町長を筆頭に副町長、教育長など、役所関係者が入会している。

1カ月に2回おこなわれる通常例会の出席率は、ほぼ100%。「出席率は地区内ナンバーワン」と胸を張る。メンバー同士の間が非常によく、奇数月に開催される夜間例会では深夜まで酒を酌み交わし親睦を深めている。1年に1度開かれる地区大会には、会員全員で参加している。

えりもRC主催の少年野球大会(上)と小学生バレーボール大会



同RCは小学生を対象とした野球大会を主催している。

えりも町にある2チームのほかに近隣市町村のチームも招待。16回目を迎えた18年は7チームが出場した。さらに11年からはバレーボール大会も開催。18年は9チームが参加して熱戦を繰り広げた。もちろん、社会奉仕活動に



えりもRCのメンバーと小山司方バナー(写真前列左から2人目)

も注力。春と秋の2回、会員全員で町内の清掃活動を実施。さまざまな事業を通じて地域の活性化を図る。

〒058・0204
梶泉郡えりも町字本町170・1
日高信用金庫えりも支店内
電話 014666・22311
FAX 014666・22314



部活動や学校生活の中で優秀な成績を残したえりも高校の生徒を表彰

小所帯でも独自の事業で地域に貢献

会員12人（2016年）が一丸となって地域に密着した活動をおこなっている。

創立は1970年。以後、とくにポリオ撲滅活動には力を入れてきた。それを象徴するのが、三石神社例大祭での募金活動だ。

ただ寄付を募るだけではない。魚の切り身などを格安で販売し、その収益の一部をポリオ撲滅のための資金にする。残った収益金は三石神社の修



出口弘史三石 RC 会長

繕費となる。

出口弘史会長は次のように語る。

「ポリオと神社の保全、私たちのクラブの募金活動は『一石二鳥』となっています。スタートしたのは14―15年度ですが、次の年度からは、魚を買わずに、寄付だけしてくれる人も出てきました。地域に私たちの活動が理解されているのだと感じ、うれしく思います」

また、歌笛神社の桜の保存や、雌蓬萊山公園への植樹もおこなっている。

「小所帯のため、身の丈に合った活動を誠実におこなうの

みですよ」と出口会長。

それでも、国

際奉仕として、

タイ・ノンカイ

地方の学校に、

水の浄化装置を

設置するプロジェクトに参加

した。

加えて、タイからの留学生

を2週間ほどホームステイで

受け入れた。これは、同RC

独自の事業だ。



三石神社でのポリオ撲滅キャンペーンの募金活動

〒059・3231
日高郡新ひだか町三石本桐217
・3 (南橋本工業内)
電話 0146・34・2001
FAX 0146・34・2002

様似

青少年育成事業に力を注ぐ

2017年、創立50周年を迎えた様似RC。会員数は17人（18年）で、メンバー増強を課題にあげている。様似町は胆振管内でもっとも人口が



様似RCの会員ら

少ないまち。そのため若い世代の会員候補が見当たらないという課題を抱えている。

そんな状況にあっても奉仕活動に妥協はない。とくに力を入れているのは、地元子どもへの奉仕活動だ。毎年4月には小学校に入学した新1年生全員に、ランドセルに取り付けられる防犯ブザーをプレゼント。さらに夏休み中の子どもたちに、他団体と協力して町の雄大な自然を体感するイベントもおこなう。

また、町立図書館にロータリー文庫を設置。毎年5万円の書籍を寄贈している。17年は紙芝居セットを用意した。

地元小学生の自然観察イベント（上）、図書館へ紙芝居セットを寄贈



同RCは国際交流も盛んだ。約20年前からは韓国の馬山RCと提携。両RCの会員が互いに訪問するなど積極的な交流を続けてきた。

今後は会員同士が楽しいと思える活動を目指し、全町民を巻き込むような事業の展開を考えている。

韓国・馬山RCとは約20年前から交流がある



〒058・0014
様似郡様似町大通2丁目35・2
日高信用金庫様似支店内
電話 0146・36・2341
FAX 0146・36・4584

静内

創立以来、青少年の育成に注力

1971年の創立以来、青少年の健全育成に強い意欲を持って取り組んできた。84年には小学3年生から中学3年生を対象にした第1回北海道少年少女キャンプを開催。その後「ヤングデイスカッシュオン」しずない」や「静内ロータリークラブ杯桜舞サッカーフェスティバル」などを実施してきた。

こうした事業を通じて静内RCの奉仕精神は地域に広がり、94年には静内高校にインターアクトクラブが誕生した。RCが支援する部活で、道内の公立高校では唯一の存在だ。2016年5月、同RC野

球同好会が全国ロータリークラブ野球大会に北海道代表として出場。その際、同RCでは、静内高校野球部の女子マネジャー2人を大会に招待した。会場が彼女たちの憧れの地である阪神甲子園球場だからだ。当時同RC会長だった福田義信野球同好会監督は「日々野球部の練習を一生懸命支えている彼女たちを勇気づけるために招待しました。とてもうれしそうにしていたので、やってよかったと思っています」と振り返る。

16―17年度は増本裕治会長のもと、新たな青少年応援事業を計画している。新ひだか

町静内地区、新冠町にあるスポーツ少年組織の会員を対象にした「スポーツ奮闘賞」の創設がその1つ。これは技術的に優れていなくても、

一生懸命、休まず努力している青少年少女に贈る賞だ。

青少年の国際交流支援も実施。新ひだか町では姉妹都市のアメリカ・レキシントン市との交換留学制度を実施しているが、クラブは留学生を1人増やすための資金援助をおこなう。

増本会長は「わがクラブの伝統である青少年の育成に今後も心血を注いでいきたい」と力強く語った。

〒056・0016
日高郡新ひだか町静内本町4・5
10 Rビル1F
電話 0146・43・2481
FAX 0146・43・2495



静内高校野球部の女子マネジャー2人を阪神甲子園球場に招待した



増本裕治静内 RC 会長

浦河

日高管内でもっとも歴史あるクラブ



浦河RC
のメンバ
ーが植樹
した桜

浦河RCは日高管内のRCとしてもっとも早い1958年に創立された。2018年に入ってから30代のメンバーが2名加入し、28人の会員で構成されている。全会員が気軽にコミュニケーションを取

開催される浦河桜まつり。約1000本のエゾヤマザクラが沿道で咲き誇る「優駿さくらロード」は人気の花見スポットだ。桜並木の一部は同RC会員らによって植樹されたものだ。

れるようにと、例会の席決めはくじ引き制を採用している。同RCは地元

このほか、町内の福祉施設に地元でつくった新米を寄贈したり、国道235号沿いに自生するハマナスの手入れなども実施している。

パラグアイの日本人学校への書籍を寄付する事業は92年からスタート。同町出身の教諭がパラグアイに移住。現地で教育の仕事に携わったのがきっかけだ。書籍の購入代金、送料を同RCが負担している。



パラグアイの日本人
学校へ書籍を寄贈



福祉施設へ米を寄付(右)、
国道沿いに自生するハマ
ナスの管理



伊達

伊達市と亘理町の絆はロータリーにも息づく

2020年に60周年を迎える伊達RCは宮城県の亘理RCと姉妹クラブを締結している。伊達市は仙台藩亘理伊達家が開拓した地で、RC同士の交流も盛んだ。

11年3月に発生した東日本大震災では直後からさまざまな物資を運ぶなど支援。17年の亘理RC創立50周年記念式典には約20人が参加した。また、茅ヶ崎湘南RCとは友好クラブを結んでおり、親睦を深めている。

伊達RCは野球好きの会員が多い。甲子園でおこなわれる全国ロータリークラブ野球大会にも出場。会員勧誘の決

まり文句は「甲子園に連れて行く」だという。ちなみに、初めて甲子園で戦った相手は茅ヶ崎湘南RCだった。

18年で38回目を迎える少年野球大会も主催。西胆振のチームが参加し、日ごろの練習の成果を競い合う。

このほかにも伊達市内の中学校英語暗唱大会への助成もおこなっている。歳末助け合い運動や「第九戦伊達雪まつり冬の陣」実行委員会へ協賛金を寄付するなど、地域のイベントにも積極的に協力。18年は、米山記念奨学会から奨学金を受ける外国人留学生の世話クラブにも、初めて参加

した。

普段の例会は、メリハリがしっかりとっていて活気があるという。

また、伊達RCの事務局はライオンズクラブと共有している。地域の奉仕団体が協力しあいながら地域発展に貢献する好例だ。



伊達RCが主催する少年野球大会

〒052・0021
伊達市末永町33・3 ホテルロー
ヤル内
電話 01422・23・0512
FAX 01422・23・0516

室蘭

地元密着が命題

創設80年を超える室蘭RCは地元に着したクラブだ。高校生や大学生を対象とした



室蘭RCゴルフ同好会

室蘭南條育英会への寄付は1957年にスタート。2018年で58回目を数え、累計で441万円にのぼっている。

63年には市立室蘭図書館にロータリー文庫を設置。これまでに約2000冊を寄贈してきた。

また、白鳥大橋の開通を記念してスタートした「スワンフェスタ」開催時には、旧JR室蘭駅舎に隣接するぼっぼらん公園でイベントを実施。

同クラブ会員らが持ち寄った品物を販売するバザーや小学校低学年を対象とした少年サッカー大会も開いている。18年6月には、室蘭と岩手県宮

岩手県宮古RCとの友好クラブ締結式



古を結ぶフェリーが就航。これを機に宮古RCと友好クラブ締結を交わした。

室蘭RCは会員同士のつながりが強いことも特徴。ゴルフ同好会には会員のほかOBも多数参加している。

〒051-0011
室蘭市中央町2丁目8番10号
電話 0143-22-7545
FAX 0143-22-7545



「スワンフェスタ」でのバザー



ぼっぼらん公園で開催する少年サッカー大会

室蘭東

地域住民から頼られる「なんでも相談室」

1961年創立の室蘭東RCの名物事業は、毎年確定申告シーズンに開かれる「あれこれなんでも相談室」だ。

医師や弁護士、税理士などの資格を持つRCメンバーを中心に、法律や医療、介護、育児、さらには冠婚葬祭にいたるまで、多岐にわたる相談



室蘭東RCの「あれこれなんでも相談室」

を無料で受けている。

同RCがこの相談室を始めたことがきっかけで、徐々に同様の事業を他団体もおこなうようになり、結果的に地域住民の相談の場を増やすことにつながっている。

65年に設立された北海道室蘭大谷インターアクトクラブ（IAC）への支援・指導も継続している。IACとは12〜18歳の中・高校生からなる奉仕団体。一般的なボランティア団体とは違い、ロータリーの精神や国際理解を重視した指導がおこなわれている。

また、イタンキ浜の清掃を30年以上おこなっており、浜

イタンキ浜の清掃



一帯を自然に戻すビオトープの活動にも参加。2017〜18年度は植樹もおこなった。普段の例会の雰囲気は、とても和やか。若い会員も参加しやすいと評判だ。

〒050・0073
室蘭市宮の森町1丁目1番64号
中島神社蓮峽殿内
電話 0143・44・3338
FAX 0143・43・7400

室蘭北

若いパワーで地域の清掃活動に汗をかく

「比較的若いロータリアンが多いクラブです」

室蘭北RC2016―17年度会長の徳永賢二氏はそう語る。若手会員からは居心地のいいクラブと評される。会員42人中、50代以下は17人。例会はいつも活気があふれている。

自ら汗をかき、地域に奉仕してきた。室蘭市内を流れる知利別川の清掃事業では、副長を履き、会員が川の中に入って作業する。

地元ボーイスカウトが50周年を記念し、同RCに協賛を求めたのが04年。RCとボーイスカウトは、ともに世界的

な組織であり、青少年の健全な育成を目指していることもあって意気投合した。そんなことから知利別川の清掃事業は、ボーイスカウトが全国的に空き缶拾いやゴミ集めをする「カントリーデー」に合わせて実施されている。

また、港町らしく地元ヨットレース「エンルム杯」にも協賛。少年野球大会も30年以上支援し続けている。

さらに、17年3月には地元旭ヶ丘小学校に対し、児童図書41冊と本棚を寄贈。「北ロータリー文庫」として、同校の図書館に設置された。

「献血例会」や交通安全週間



室蘭北RCが地元ボーイスカウトと共同でおこなう知利別川清掃事業

に合わせておこなう、メンバー全員参加の交通安全啓発活動など、今後も地域に寄り添った事業を展開していく。

〒050・0074
室蘭市中島町2丁目28・6 ホテ
ル・サンルート室蘭内
電話 0143・45・6569
FAX 0143・50・6578

登別

明日中等学校寄宿生らとも交流見学

全国屈指の温泉地・登別にRCができたのは1969年のこと。登別RCはこれまで韓国・釜山の「日本図書館」に120冊の本を贈ったり、登別点訳赤十字奉仕団へ点訳機を寄贈するなどの事業をおこなってきた。現在26人の会員（2018年）で活動する同RCが、40年以上続けているのは、市立図書館への寄付だ。資金協力はこれだけにとどまらず、世界食糧デー登別大会や登別市少年野球連盟の支援もおこなっている。

参加し、ケーキと飲み物をブレゼントする。中高一貫校で、道内はもとより、全国から生徒が集まる北海道登別明日中等教育学校の寄宿生との交流事業も実施。初めての寮生活で生徒がホームシックにかかりがちな5、6月に大型バスを貸し切り、ジンギスカン・焼き肉大会をおこなっている。さらに「アイヌ神謡集」の著者・知里幸恵の生涯と業績が展示されている「銀のしずく記念館」を一緒に訪問するなど、学びの場も提供している。毎月1回は夜間例会をおこなっている。市内の飲食店を

例会場にし、少しでも地域のにぎわいにつながればという思いで実施している。

18―19年度の喫緊の課題は会員増強だが、まずは既存会員がロータリーの奉仕の精神を再度正しく理解することで、あらためて持続可能なクラブづくりを進める考えだ。

〒059・8691
登別市中央町5丁目6・1 登別
商工会議所内
電話 0143・85・4111
FAX 0143・85・4199



登別RCが実施する北海道明日中等教育学校との交流

洞爺湖

まちの観光事業に寄与

洞爺湖RCは会員数は10人（2019年）と多くはないが、会員同士のチームワークがよく、家族ぐるみの親交が深い。例会は月2回で夜間のみ。会場は洞爺湖万世閣ホテルレイクサイドテラスだ。支配人が会員で、同ホテルのコース料理が振る舞われる。19年、創設50周年を迎えた。

食事が自慢の例会



その記念事業として町にベンチを2台寄贈。設置場所はJR洞爺湖駅前の海岸沿いだ。

洞爺湖町にはインバウンドの観光客も大勢来ているが、JRを利用して訪れる人も多いという。外国人観光客は駅から歩いて海岸に行き、噴火湾の景色を写真に収めていく。しかし、その海岸には休憩スペースがなかったことから今回の寄贈を決めた。

洞爺湖町では毎年「北海道ツーデーマーチ」というウォーキング大会が開かれている。同RCはスूपなど、1500人分の軽食を無料で提供している。



読書紹介文コンクールの優秀者へ図書券を贈呈



町内にサクラやツツジを植樹

〒049・5601
虻田郡洞爺湖町青葉町 皇恩寺内
電話 0142・76・2440
FAX 0142・76・5281



「北海道ツーデーマーチ」で振る舞う軽食の準備

伝統と格式を重んじる

函館RCは1934年、日本で14番目、北海道では3番目に創設されたクラブである。脈々と受け継がれる伝統と格式を重んじながら、現在83人の会員（2019年）で事業



会員で構成される合唱団「ホワイトダッグス」は全日本RC合唱親睦祭に出場

をおこなっている。

代表的な事業としては「函館ロータリー奨学金制度」がある。函館市内在住の高校・大学・大学院生に対して月額1万5000円を支給するもので、64年から毎年継続されている。

このほかバードサンクチュアリ事業も実施。さまざまな野鳥が観察できる函館山に小屋を建設。誰でも自由に使用可能だ。また、市内の小学生に製作してもらった巣箱を設置し、会員らで維持管理をしている。

同RCの例会は、創立時より「五島軒」で開かれている。

「函館RC奨学金制度」を利用する学生たち



例会で振る舞われる五島軒のカレー



函館山の樹木に巣箱を設置

1カ月に一度、カレーが振る舞われる。

〒040・0064
函館市大手町5番10号 二チロビル4F
電話 0138・23・3870
FAX 0138・22・2251

函館亀田

フレンドリーさを重視

入会年や年齢に関係なく、
会員同士のフラットな関係が
自慢の函館亀田R.C。
注力するのは社会奉仕。毎
年30人ほどの留学生を招いて
そば打ちや餅つきなど、日本

職業体験でショベルカーを操作する中学生



の文化に触れる機会を創出し
ている。さらに幼稚園児と一
緒に高齢者福祉施設を訪問。
これまで車イスやストレッチ
ャーなど寄贈した。幼稚園児
による遊戯は入居者から大好
評だ。

同R.Cは市内の中学生の職
業体験に協力。会員の企業が
受け入れている。実際に従事
した感想は例会で発表され、
その内容に会員は毎回感銘を
受けている。会員らは、職業
体験した生徒たちが実際に入
社してくれることを期待して
いる。



留学生に大人気のそば
打ち(上)と餅つき体験



近隣の幼稚園と協力して高齢者福祉施設を訪問

〒040・0064
函館市大手町5番10号 ニチロビ
ル4F
電話 0138・23・3870
FAX 0138・22・2251

枠を超えた交流を盛んにおこなう

1961年、渡島管内森町を未曾有の大火災が襲った。

いわゆる「森町大火」だ。そこからの復興を目指し立ちあがった人たちによって、64年につくられたのが森RCだ。

ここ数年は若い世代の会員が増えており、平均年齢は51歳（2017年）となっている。通常の例会が夜にのみおこなわれるのも、同RCの特徴の1つだ。

16年度から少年バドミントン大会を主催。さらに17年度はU-12サッカー大会もスタートさせるなど、青少年育成事業に力を入れている。

毎年8月には短期のホーム

ステイを体験するため、日本各地から外国人留学生が森町に来る。

同RCはその留学生とホストファミリーを例会に招き、

国際親善を図っている。

他クラブとの交流も盛んで、同じ地域にある国際ロータリー第2510地区第10、11グループの各クラブが一堂に会する「観桜会例会」も毎年5月に実施している。会場となるのは多種多様な桜が見られる同町の青葉ヶ丘公園だ。

さらに、地元にある2つのライオンズクラブや青年会議所、それに町を加えた合同例会も恒例行事の1つ。あらゆる

本年度おこなわれた森RC主催のU-12サッカー大会



る枠を超えた奉仕態勢を日ごろから整えている。

会員家族とともにおこなう移動例会やクリスマス会も開いており、クラブの雰囲気同様、和気あいあいとした活動が続けられている。



ニセコでおこなった森RCの家族移動例会

〒049・2325
 茅部郡森町字本町6・22 森商工
 会議所内
 電話 01374・22432
 FAX 01374・22684

七飯

地域に定着した人気行事「カレンダー市」

七飯RCはこれまで、渡島管内七飯町にある「あかまつ公園」の整備に尽力してきた。

ソーラー時計や看板の設置、ベンチの寄贈をおこない、パークの指導を受けながら植樹もおこなってきた。これらは町とともに管理している。

大沼国定公園を1周するイベント「北海道大沼グレートラン・ウォーク」にも協賛。参加者のゼッケンには「七飯RC」の文字も書かれている。主に水の寄付をおこない、大会を支えてきた。

日本の大学に通う外国人留学生が七飯町内にホームステイするプログラム「七飯町国

際交流夏の集い」では、同RC特別例会として、外国人留学生らをおもてなしする夜がある。

そこでは三味線を聞かせるなどして日本文化に触れてもらう一方で、留学生が抱える悩みなどにも親身になって耳を傾ける。少しでも不安が和らぎ、日本、そして七飯を好きになってくれるよう努めている。

町民から大好評なのは「チャリティーカレンダー市」だ。会員の会社などで余っているカレンダーをクラブに提供してもらい、正月明けに同町の三嶋神社で販売。2018年

あかまつ公園の整備をおこなう七飯RCの会員たち



で13回目となり、開始前から人が並ぶほど、いまや地域に定着した活動となった。

ちなみに、カレンダーはほとんどが1部100円で、日めくりカレンダーは少し高い。この販売で得た収益金は、全額が町の社会福祉協議会へ寄付されている。



会員が力を合わせて植樹をする

〒041-1112
亀田郡七飯町鳴川一丁目6番29号
石川アルミ内
電話 0138-657634
FAX 0138-651996

長万部

「東京理科大」でつながる友好クラブ

東京葛飾R.C.の歓迎を受ける
長万部R.C.の会員ら

長万部R.C.は2017年に創立50周年を迎えた。

これを記念して友好クラブである東京葛飾中央R.C.を訪問。その際、帝国ホテルで開かれた東京R.C.の例会にも出席した。

長万部R.C.と東京葛飾中央R.C.の共通点は、地元「東京理科大学」(以下、理大)のキャンパスがあることだ。

長万部R.C.は奉仕活動の一環として、毎年初夏に開かれる「長万部毛ガニまつり」に綿あめ店を出している。17年は店先に立っている会員に声をかけてきた2人の理大生が、販売を手伝ってくれたという。

2人とも本州の高校でR.C.がサポートする12〜18歳の社会奉仕クラブ「インターアクトクラブ」に在籍していた経験があり、まさに奉仕の精神が世代や地域を跳び越えて結んだ縁だった。

長万部は1993年に発生した北海道南西沖地震の被災地だ。そのため、長万部R.C.は以前からまちの防災機能の強化に協力している。

これまで地元保育園に幼児避難車を寄贈するなど、いざというときに命を守るための奉仕活動は、今後とも大いに続けていく。



〒049-3521
山越郡長万部町字長万部町36-2
長万部商工会内
電話 01377-22270
FAX 01377-25257

函館セントラル

まちの交通安全に注力



梁川交通公園に寄贈したゴーカート

2018年11月に新クラブが結成されるまでは、第2510地区内でもっとも新しいクラブだったのが、函館セントラルRCだ。19年で15周年を迎えた。

特徴的的事业は交通安全の啓蒙活動である。子どもたちが交通ルールやマナーを学べる梁川交通公園にゴーカートや自転車も寄贈している。

また、秋には全国交通安全運動にあわせて街頭啓発を実施。信号待ちで止まったドライバークリッシュなどの日用品200個を配りながら安全運転の徹底を呼びかけている。

この活動で函館市安全年推

ドライバーに安全運転を呼びかける函館セントラルRCの会員ら



進委員会より、交通安全部門
団体賞を受賞している。

〒040-0064
函館市大手町5番10号 ニチロビ
ビル4F
電話 0138-23-3870
FAX 0138-22-2251



梁川交通公園での
寄贈式には多くの
子どもたちも出席

江差

全員参加で植樹と職人の表彰を継続

1962年創立の江差RC
会員数11人(2018年)に
よる全員参加型の活動をおこ
なっている。

30年以上前から植樹活動を
実施。中でも江差町馬場山に
ある「ロータリーの森」はク
リの木197本、ブンゴウメ
の木57本が植えられており、
長年の活動を象徴する場とな
っている。

植えっぱなしではなく、森
を維持するための枝切り作業
や下刈り作業も営林署OBの
指導を受け、会員自らの手で
おこなっている。

こうして育てたロータリー
の森は常に解放されており、

春や秋に実ったウメやクリの
実を多くの町民が拾いにくる
という。

江差の海は磯焼けが進み、
コンブなどがとれなくなつて
いた。クリやウメ、サクラ、
ミズナラなどの広葉樹を植え
ることにより、落ち葉、土、
川を通じて植物プランクトン
を海に流し、水産資源を育む
狙いもある。

また、職業奉仕活動の一環
として、地元で匠の技を長年
伝承している職人を讃える
「職業奉仕表彰事業」も実施
している。

これまで姥神太神宮渡御祭
で使用する山車の車輪をつく

江差RCの隅田秀男会長
(前列右)ら



る職人や、明治時代の古い時
計まで修理する職人のほか、
桐細工、たんす金具、漆塗り
畳など、さまざまなジャンルの
職人を表彰してきた。

これからも植樹、そして職
業奉仕表彰を継続的におこな
っていく一方で、新たな会員
の獲得にも力を入れていく。

〒043・0042
檜山郡江差町宇新地町26 赤石産
業(株)シャディサラダ館江差店
電話 0139・52・0539
FAX 0139・52・0054



江差町馬場山にあるロータリーの森。
たくさんの実がなるクリの木(左)

函館五稜郭

若い会員が多く活気がある

函館五稜郭RCは道南11クラブの中で2番目の規模を誇る。現在56人が在籍（2018年）しているが、約4分の1が40歳以下の若い会員だ。その世代が積極的に活動をリードして活気がある。

会員らによるバンドが結成され、ポリオ撲滅チャリティコンサートを開催。親交のある他クラブの記念式典に招待され、演奏を披露することもあるという。

社会奉仕事業では、16年にサッカー元日本代表でコンサドーレ札幌でもプレーしていた解説者の吉原宏太氏を招いてサッカー教室を開催した。

17年からは小学3年生以下のサッカー大会に発展。主催初年度は8チームの参加だったが、2回目となる18年は2倍の16チームが出場するほど一気に浸透した。

09年から開催されている「はこだて国際科学祭」にブースを出店。北海道工業技術センターと協力して液体窒素を使ったアイスキャンディーづくりやロウソクの煙を押し出す空気砲を製作した。

「五稜郭祭」「函館野外劇」など地元のイベントにも積極的に参加して、市民との交流



函館五稜郭RC会員の有志で結成されたバンド

を図っている。

さらに国際奉仕事業として11年からベトナムの孤児院を支援。貧困などの理由から親元で暮らせない0歳から18歳の子どもたちへ、衣類や文房具などの寄贈をおこなっている。



主催したサッカー大会に出場した小学生と函館五稜郭RCの会員ら

〒040-0064
函館市大手町5番10号 ニチロビル4F
電話 0138-23-3870
FAX 0138-22-2251

オーダーメイドの車椅子を寄贈

函館東RCの会員は45人中8人が女性（2018年）。

男性では思いつかないようなアイデアが提案されるといふ。会員同士の世代間ギャップもあるが、和やかな雰囲気では活動はおこなわれている。

力を注いでいる国際奉仕事業は、タイでの車椅子寄贈。会員が愛知県のNPO法人「アジア車いす交流センター」の副理事長と親交があったことがきっかけだという。

11年から毎年10人ほどで現地を訪問。身体障害者へ20台の車椅子寄贈を実施している。使用する人の年齢や体格、障害の程度に合わせた完全オーダー

メイドである。この車椅子を製作する現地の工場では、障害者を作業者として受け入れており、雇用促進にも一役買っている。

同RCは地域に密着した活動も盛んだ。17年は創設60周年記念事業の一環として函館市立小中学校7校に車椅子を寄贈。09年からは西桔梗野球場での植樹をスタート。荒地だった同球場の周囲にこれまでに約500本の樹木のほか芝生を植え付けた。

また、約40年にわたって返済義務がない独自の奨学金制度を実施。市内私立高校に通う生徒3人に毎月1万円を支

毎年タイの障害者へ完全オーダーメイドの車椅子を寄贈



給している。

このほか親交のある函館大学のボランティアサークルと連携して大森海岸の清掃や、24時間テレビの募金活動などをおこなっている。



市民軟式野球場の緑化整備をおこなった函館東RC会員ら

〒040-0064
函館市大手町5番10号 ニチロビル4F
電話 0138-23-3870
FAX 0138-22-2251

函館北

家族ぐるみでの親交が深い

2018年で創設55周年を迎える函館北RCの会員数は17人。平均年齢は約66歳で和気あいあいとした雰囲気の特徴だ。一方で、課題は会員増強。活動の見学を受け入れ、新規会員の入会を積極的に呼



少年野球大会の開会式

びかけている。

同RCは06年から函館マラソンの給水ボランティア活動をおこなっている。在籍していた会員が同大会の実行委員だったことがきっかけでスタートした。いまでは会員が経営する企業の社員らも参加し、市内を疾走する約8000人のランナーたちへ温かい声援を送っている。

このほか1954年に台風によって沈没した青函連絡船洞爺丸海難事故の慰霊碑清掃活動や、18年で5回目を迎える少年野球大会を主催している。

同RCにはゴルフを趣味と

している会員が多いことから、函館市近郊のゴルフ場で親睦コンペを年に数回開催。さらに夜間例会や家族会には多くの会員家族が出席するなど、家族ぐるみで懇親を深めている。



函館マラソンでランナーにドリンクを手わたす函館北RCメンバーたち

〒040・0064
函館市大手町5番10号 ニチロビ
ル4F
電話 0138・23・3870
FAX 0138・22・2251

地域全体を巻き込み「防災キャンプ」を実施

前身の上磯R.C.が設立されてから2016年で20周年を迎えた。この間、一貫して青少年・新世代の育成を事業の中心に据えてきた。

中でも06年から始めた「キッズアドベンチャー」と題した防災キャンプは、地域全体を巻き込んだ事業に成長している。

北斗市や同市教育委員会、函館地方隊友会、北斗スポーツクラブ、函館大谷短期大学、北斗市教職員有志、北斗R.C.で組織される実行委員会が主催。北斗R.C.が議長を務めている。さらに陸上自衛隊函館駐屯地第28普通科連隊と南渡

島消防事務組合北斗消防署の協力を得て防災キャンプは開かれている。R.C.と自衛隊が協力する事業は全国的にも珍しいという。

16年は7月30日に事前研修がおこなわれ、8月5～7日の2泊3日の日程でキャンプが開かれた。

小学4～6年生、中学生など51人が参加。事前研修では消防署員が救急時に小さい子どもでもできる対処法や、命の大切さなど教える講習会を開催した。

キャンプ本番では函館駐屯地を訪問。防災対応を学び、レンジャー訓練などを体験し

た。さらに、函館大谷短大の学生によるイベントも実施。

北斗R.C.会員の千秋栄氏は「東日本大震災以降は子どもたちだけではなく、親の防災意識も変わってきたように感じます。今後も地域全体で継続していきたい」と語る。



キッズアドベンチャーの事前研修で救急法を学ぶ子どもたち

〒049・0111
 北斗市七重浜8丁目4番1号 七重浜の湯内
 電話 0138・49・4411
 FAX 0138・49・2288

白老

開かれたロータリー活動を実施

白老RCの2018-19年度会長は山田和子氏。同RC初の女性会長だ。会員数は30人。山田会長を含め3人の女性会員が在籍している。

「町内のどの会合でもクラブの会員が顔合わせる。そのため会員同士は非常に仲がいいです」（山田会長）

同RCは例会の食べ物がない



地元の子どもたちと植樹活動

慢。海が近いため海産物が豊富で、フグやアンコウなど高級食材がテーブルに並ぶこともあるという。

1979年に創立された同RCは、これまで多くの事業をおこなってきた。例えば、青少年交換や少年サッカー大会の主催、町内での桜の植樹や図書の寄贈など、多岐にわたる。18年度は米山奨学生としてベトナム人留学生を支援している。

そんな中、ロータリー活動を広く知ってもらおうと11年からスタートしたのが公開例会だ。同RCが費用を負担して講演会を開いている。



公開例会を主催している白老RCの会員たち

毎回、会場には町内外から大勢の人が駆けつける。過去にロンドンオリンピック柔道女子63^{kg}級銅メダリストの上野順恵選手を招いたこともある。



過去には少年サッカー大会を開催

〒059・0905
白老郡白老町大町2丁目3番4号
しらおい経済センター内
電話 0144・85・2736
FAX 0144・85・2988

苦小牧

震災で傷ついた岩手県山田町を支援

2016―17年度に60周年を迎えた苦小牧RC。同年度は7人の会員増強を達成した。

1961年から苦小牧民報社、苦小牧市社会福祉協議会と共同し、ナナカマドの植樹をスタート。この活動は市民運動へと発展し、その後も山桜などを植樹。現在は市内にある「はなしようぶ園」の維持管理に寄付をおこなっている。



岩手県山田町の駅に飾られている地元RCの時計。震災が発生した時間で止まっている

15年からは東日本大震災の被災地、岩手県山田町への支援活動を開始。主におこなう

のは地元の山田RCとの交流だ。一時は存続も危ぶまれた山田RCの運営を支援するため、毎年義援金を現地に行つて手わたしている。山田町では教育委員会とRCが小中学生の作文集「やまだの作文」を40年以上前から制作し続けてきた。震災の影響で資金不足に陥ったが、苦小牧RCなどの寄付によって「やまだの作文」は存続している。

17―18年度は17年10月に苦小牧で開催される「日本女性会議」への協力を力を入れて

岩手県山田町の「鎮魂の鐘」を訪れた苦小牧RCのメンバー



いく。苦小牧市は、道内でいち早く男女共同参画都市宣言を發したまちである。苦小牧RCとしても、同会議の成功に向け、最大限の努力を惜しまない。

苦小牧東RCとも連携をとりながら、地元の少年少女合唱団の応援なども継続していく。

〒053・0022
苦小牧市表町1丁目1番13号 経
済センタービル6F
電話 0144・36・2688
FAX 0144・33・3159

苦小牧東

米空軍の「クリスマスドロップ作戦」にも参加

苦小牧東RCは創立以来、地域の環境保全に取り組んできた。市民を巻き込んだ活動内容は多岐にわたり、これまでキャンプ場の清掃活動や環境保全をテーマに据えたフォーラムを開催してきた。

2002年には市内14校の中学生から募集した環境標語の1つ「看板に偽りなし郵便番号053（ゼロゴミ）街苦小牧」を用いた看板を製作。市環境衛生部の協力を得て、道の駅ウトナイなど、市内6カ所に掲げた。

03年は環境ソング「クリーンナンバー・053」を作曲。苦小牧RCとともに創設した

SSC苦小牧少年少女合唱団が歌うCDも作成した。この歌はゴミ収集車のスピーカーを通じて市内中に流れている。

一方、国際奉仕事業に目を向けると、14年からアメリカ空軍の人道支援活動「クリスマスドロップ作戦」に参加している。毎年12月、西太平洋のミクロネシア連邦の住人に対し、クリスマスプレゼントとして空中から生活必需品などを投下。苦小牧東RCの会員はグアム・アンダーセン基地で寄付品の箱詰め作業もこなっている。

この事業で協力している茨城県の龍ヶ崎中央RC、グア



苦小牧東RC、龍ヶ崎中央RC、グアムサンライズRCは友好クラブを締結



クリスマスドロップ作戦ではグアムに行き箱詰め作業をおこなう

ムサンライズRCとは友好クラブを締結。奉仕の輪を全国に、そして、世界へと着実に広げている。素晴らしい奉仕活動には積極的に参加する姿勢が根付いている。

〒053・0022

苦小牧市表町1丁目4番5号 ほか

くせんビル5F

電話 0144・35・3344

FAX 0144・33・7744

苫小牧北

地区内で唯一、RCCを結成

苫小牧北RCCは2019年、50周年の節目を迎えた。28人で活動している。同RCCは2510地区で唯一、RCC（ロータリー地域社会共同隊）を結成している。

RCCとは、RC会員以外の人々がRCの取り組みに賛同して、地域社会のためにボランティア活動をするグループのこと。このグループの活



例会でお菓子づくりにチャレンジする会員

少年サッカー大会の試合会場で発行された号外



動をRCがバックアップする。

同RCCは1995年にRCCとして苫小牧家庭生活カウンセラー協会を設立。市民に対して心のケアをおこなっているカウンセラーを支援したり、新たなカウンセラー養成を応援。これまで約500人を育成してきた。

同RCCは小学生のサッカー大会も主催している。この年代では数少ない11人制を採用しており、18年大会で38回目の開催となった。

19年大会は胆振管内から14

チームが参加。

2日間に及ぶトーナメントで熱戦が繰り広げられた。

地元紙の苫小牧民報社に協力を仰ぎ、試合会場で号外を発行。選手やその家族から好評を得た。



苫小牧北RCのメンバー

〒053・0022
苫小牧市表町1丁目4番5号
ほくせんビル5F
電話 0144・333・0112
FAX 0144・333・7744

謝辞にかえて

私は、ガバナーとしての公式訪問でどのクラブも素晴らしい奉仕活動をされていることを知りました。2510地区内の各ロータリークラブの奉仕活動を2510地区内全てのロータリーアンに知っていただく、さらには道民のみなさんにロータリーを理解していただく、公共イメージ向上を意識致しました。

財界さつぽろ・舟本秀男社長（札幌南RC）のご厚意で、2016年から3年間月刊誌「財界さつぽろ」で毎月2ページを提供いただきました。第2510地区内のすべてのロータリークラブに取材に行っていたいただき、各クラブの奉仕活動を掲載していただきました。さらには、誕生したばかりの札幌ライラックRCも追加取材していただきました。舟本社長はじめ担当された財界さつぽろのみなさんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2016—2017年度ガバナー

武部 實（札幌南RC）



在任時掲載クラブ（掲載順）

- 2016年 9月号 倶知安・三石・静内
11月号 滝川・北斗・江差
12月号 小樽南・岩見沢・岩見沢東
2017年 2月号 札幌東・札幌真駒内・長沼
3月号 札幌西・札幌西北・札幌幌南
5月号 苫小牧・苫小牧東・室蘭北
6月号 札幌手稲・千歳・恵庭

2017—2018年度ガバナー◎国立 金助（函館RC）



在任時掲載クラブ（掲載順）

- 2017年 8月号 小樽・小樽銭函・余市
9月号 栗山・美唄・栗沢
11月号 札幌・札幌はまなす・札幌北
12月号 赤平・芦別・砂川
2018年 2月号 長万部・森・七飯
3月号 札幌大通公園・札幌清田・新札幌
5月号 妹背牛・羽幌・留萌
6月号 函館北・函館五稜郭・函館東

2018—2019年度ガバナー◎小山 司（札幌RC）



在任時掲載クラブ（掲載順）

- 2018年 8月号 室蘭東・登別・伊達
9月号 千歳セントラル・北広島・由仁
11月号 浦河・様似・えりも
12月号 江別・江別西・当別
2019年 2月号 札幌南・苫小牧北・白老
3月号 函館・函館亀田・函館セントラル
5月号 室蘭・深川・洞爺湖
6月号 岩内・蘭越・札幌モーニング

ロータリークラブは何をしている団体？ 私たちの奉仕活動 国際ロータリー第2510地区

初出「財界さつぽろ」2016年7月号～2019年6月号
2020年8月30日発行

編著者 「財界さつぽろ」編集部
発行者 舟本秀男
監修 国際ロータリー第2510地区
発行所 株式会社財界さつぽろ
〒064-8550 札幌市中央区南9条西1丁目1番15号
電話 011-521-5151(代表)
FAX 011-521-2771
印刷・製本 大日本印刷株式会社

※本書の全部または一部を複製(コピー)することは著作権上の例外を除いて禁じられています。

※造本には十分注意していますが、万が一、落丁乱丁のある場合は小社販売係までお送りください。送料小社負担でお取り替えいたします。

